

2025年度 学生生活実態調査報告書



第77回 西日本医科学学生総合体育大会報告会 (2025.9.5)



川崎医科大学

もくじ

はじめに	3
調査概要	4
調査結果のまとめ	5
各質問に対する回答状況	6
問2. 学生生活は充実していますか	7
問3. 学生生活は何を通じて充実していますか	8
問4. 大学生活で大切なことは	9
問5. 将来の進路は	10
問6. 現在、悩みや不安がありますか	11
問7. どのような悩みですか	12
問8. 悩みや不安等の相談相手は	13
問9. 授業・学修に対する意欲は	14
問10. 授業・学修に対するモチベーションの源は何ですか	15
問11. 授業・学修にあまり意欲を持ってない理由は何ですか	16
問12. 学修の方法は	17
問13. 誰と学修していますか	18
問14. どこで学修することが多いですか	19
問15. 講義に満足していますか	20
問16. 1日の平均睡眠時間は	21
問17. 1日の平均自主学習時間は	22
問18. 自主学習の際に主に行っていることは何ですか	23
問19. 自主学習時間を確保する上での課題は何ですか	24
問20. 自主学習時間は自分にとって十分だと思いますか	25
問21. 1日平均でテレビ、動画配信サービス等の視聴やSNS、ゲーム等に費やす時間は	26
問22. 1日平均でSNS以外で友人との交際・趣味・娯楽等に使う時間は	27
問23. アルバイトをしていますか	28
問24. クラブ活動に参加していますか	29
問25. クラブ活動と学修の両立は	30
問26. クラブ活動の重要度は学修と比べてどう考えますか	31
問27. クラブ活動で得たものは	32
問28. クラブ活動に参加しない理由は	33

もくじ

学生の行動規範について（問29～問35）	
問29. 1. 社会の一員として責務を自覚する	34
問30. 2. 医学の研鑽に努め、優れた医療人を目指す	35
問31. 3. 円滑な人間関係を築き、協調性を大切にする	36
問32. 4. 医療に関わるすべての人に敬意と思いやりを持って学ぶ	37
問33. 5. 個人情報適切に扱い、守秘義務を徹底する	38
問34. 6. 人権を尊重し、公平かつ論理的な態度を維持する	39
問35. 7. 情報発信には細心の注意を払い、医学生としての品位を保つ	40
問36. 大学からの連絡をどの程度確認していますか	41
問37. 大学からの情報・連絡を受ける取る際に、主に利用している手段は何ですか	42
問38. 本学の総合的な満足度はどれくらいですか	43
刊行情報	44

はじめに

本学では、学生の皆さんが安心して学び、充実した学生生活を送ることができる環境づくりを目的として、毎年「学生生活実態調査」を実施しております。本調査は、講義・実習をはじめ、生活環境、心身の健康、学修意欲、進路意識など、学生生活のさまざまな側面についてお伺いし、その実態を客観的に把握するための重要な取り組みです。

近年、医療を取り巻く環境や教育方法が大きく変化する中で、学生生活も多様化し、学生が抱える不安や困りごとにも変化しています。今回の調査では、日頃の学修や生活の中で感じている課題や大学への期待、支援体制に対する要望など、多くの率直なご意見が寄せられました。これらの声は、今後の学生支援の在り方を検討し、教育環境の改善につなげていく上で、極めて重要な指針となるものです。

本調査にご協力いただいた学生の皆さんに、心より感謝申し上げます。寄せられたご意見の一つひとつを真摯に受け止め、今後も学生部を中心に、教職員および関係部署が連携しながら、より良い学修・生活環境の整備に努めてまいります。本報告書が、学生生活の現状を広く共有するとともに、本学における教育改善および学生支援の充実に向けた一助となることを願っております。

学生生活委員会委員長 岡本 安雄

調査概要

1. 調査の目的

本調査は、本学における学生の学修環境、生活状況、心身の健康状態および支援ニーズを把握し、学生支援体制および教育環境の改善に資する基礎資料を得ることを目的とするものである。

2. 調査の組織

本調査は、学生課を主体として実施している。調査票の設問は学生課が作成しているが、一部には医学教育センターが作成した項目も取り入れ、学生生活や学修状況を幅広く把握できるように構成している。収集したデータの集計・分析はIR室が担当し、その結果をもとに報告書を作成している。報告書の取りまとめにあたっては、学生課の協力を得ながら、関係部署と連携して内容の精度向上に努めた。

3. 調査の期間

2025年9月1日～9月13日まで実施した。

4. 調査の対象者

調査時点での本学の学部在籍するすべての学生で、対象者の総数は計794名であった。

5. 調査の方法

本調査は、Google フォームを用いたオンライン形式で実施したものである。回答は全て匿名で収集しており、個人が特定される情報は取得していない。回答者には学年のみを入力してもらい、学修状況や生活実態を学年別に把握できるようにした。

得られた回答データは、集計・分析の過程においても匿名性を確保し、個人情報の保護に十分配慮して取り扱っている。

6. 回収状況

対象学生794名のうち、554名からの有効回答を得て、回答率は69.8%であった。各学年の回答数と回答率は次頁に示す。

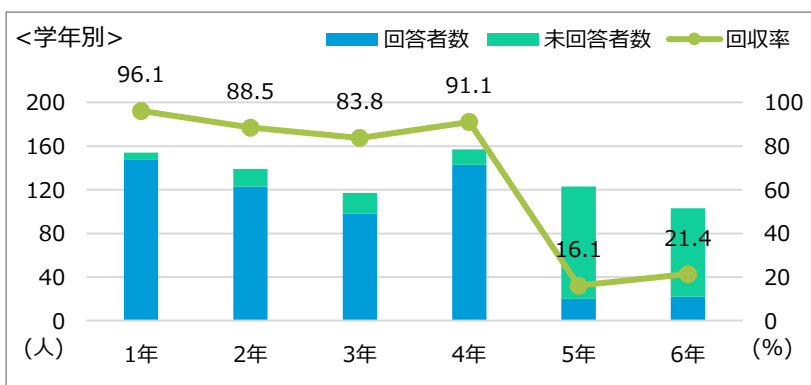
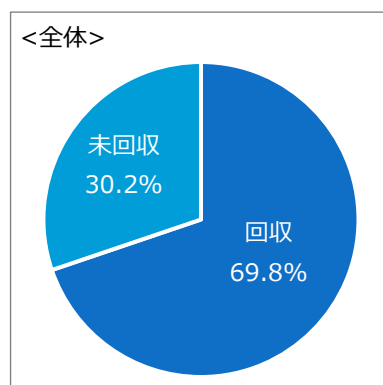
7. 集計方法

各質問の集計比率は、原則として有効回答者数を分母として算出し、小数点第2位で四捨五入している。そのため、比率の合計が100.0%とならない場合がある。また、「複数回答可」とした質問については、当該質問に回答した有効回答者数を分母とし、各選択肢の回答比率を算出した。なお、質問の構成上、分析に用いる母数は質問ごとに異なる場合がある。

全体のまとめ

1. 各学年の回答状況

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全学生
在籍学生数 (人)	154	139	117	157	124	103	794
回答者数 (人)	148	123	98	143	20	22	554
未回答者数 (人)	6	16	19	14	83	81	240
回収率 (%)	96.1	88.5	83.8	91.1	16.1	21.4	69.8



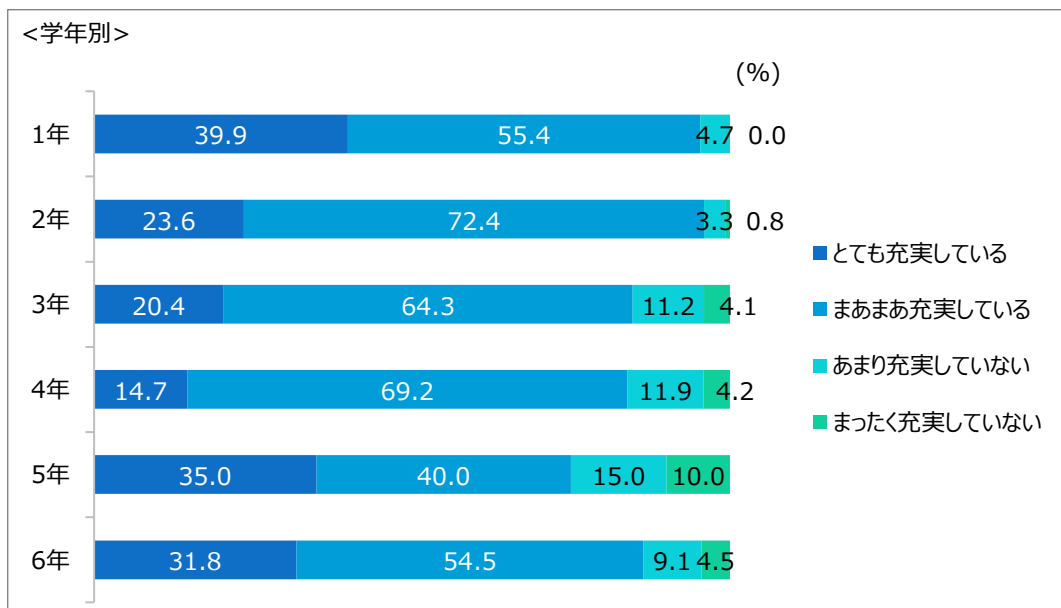
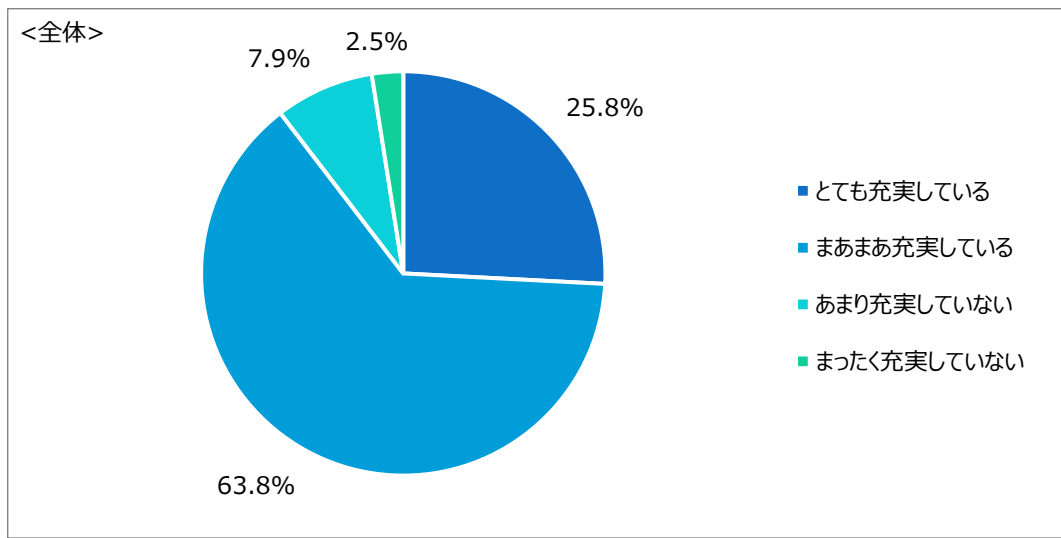
2. 結果について

- 学生生活実態調査の結果から、本学学生は、将来の進路を見据えた明確な目的意識と高い学修意欲を維持しながら、学年進行に伴って増大する学業負荷や精神的プレッシャーに対応し、着実に成長している様子がうかがえます。
- 学修面では、「進級・卒業」や「将来のキャリア」を目的とする意識が全学年で高く保たれています。一方、学年が上がるにつれて自主学習時間の不足感が強まり、高学年では長時間学習や個別学修、自修室の利用が増加しています。これらの結果から、専門性の深化に伴い、学生がより集中できる学修環境を求める傾向が示されています。
- 進路や学修に関する不安は全学年で高水準にあり、特に4年生以降で顕著に増加しています。臨床実習や国家試験、進路選択が具体化することで心理的負担が高まる一方、高学年ほど学年担当教員をはじめとする関係教員や学生相談室などの専門的支援を活用する傾向が認められます。また、進路意識は学年進行とともに現実的となり、臨床経験を通じて大学病院勤務を志向する学生が増加しています。
- 学生生活の充実度は概ね安定しており、友人関係やクラブ活動が重要な支えとなっています。ただし、学業負荷の増大に伴い、クラブ活動への参加は高学年で減少する傾向が見られます。一方、継続して参加している学生にとっては、交流や健康維持の面で、学修とのバランスを保つ役割を果たしていることがうかがえます。
- 学生の行動規範に関する認知度および遵守意識は全体として高いものの、一部では十分に浸透していない状況も見受けられ、今後は規範意識の一層の向上が課題と考えられます。
- 以上の結果から、本学学生は、学修量の増大や不安の高まりといった課題を抱えつつも、人的・制度的支援を適切に活用しながら、専門職としての責任感と学生生活との調和を図っているものと評価できます。

各質問に対する回答状況

【問2】 学生生活は充実していますか

	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 とても充実している	25.8	39.9	23.6	20.4	14.7	35.0	31.8
2 まあまあ充実している	63.7	55.4	72.4	64.3	69.2	40.0	54.5
3 あまり充実していない	7.9	4.7	3.3	11.2	11.9	15.0	9.1
4 まったく充実していない	2.5	0.0	0.8	4.1	4.2	10.0	4.5
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22

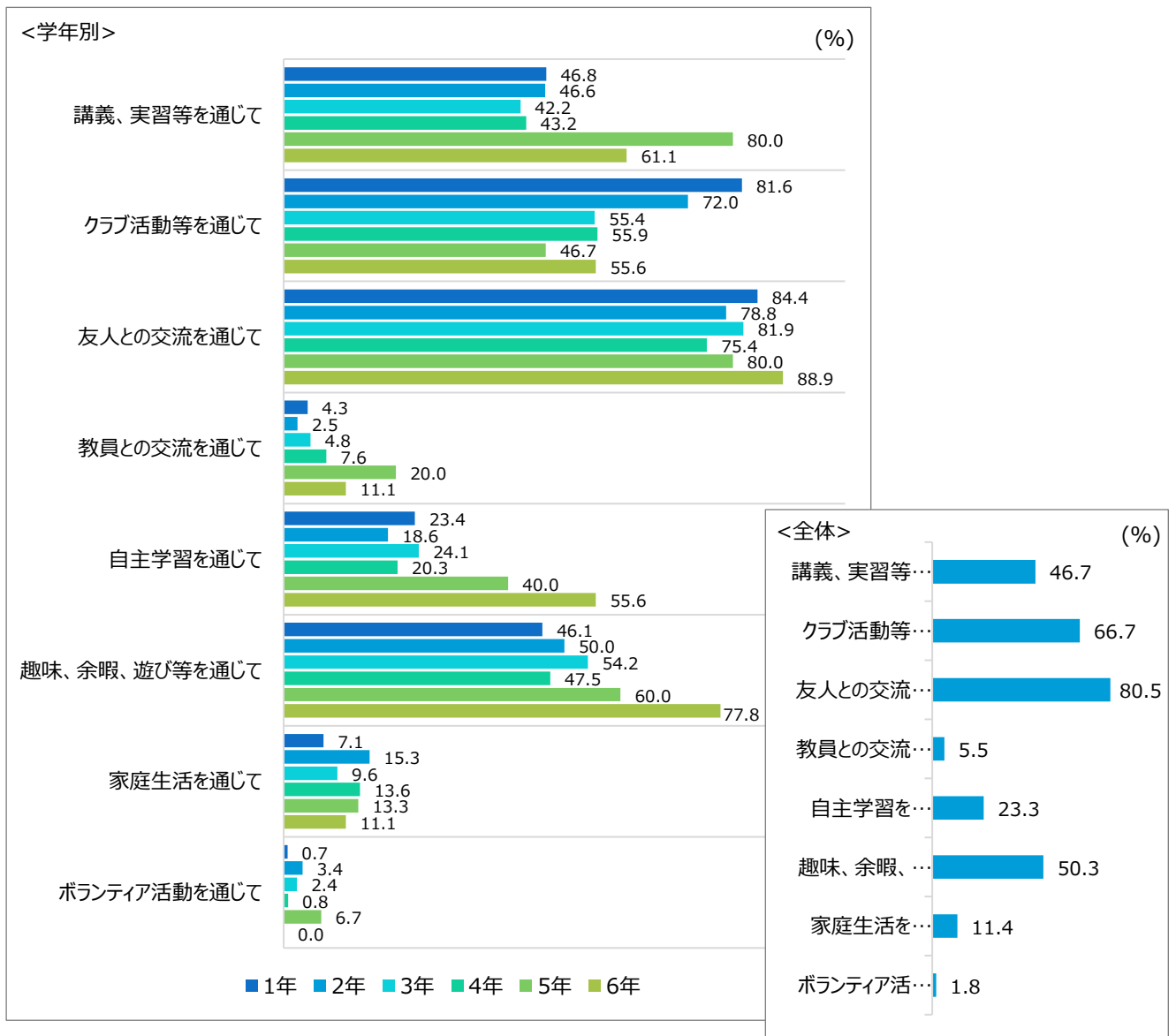


「とても充実している」「まあまあ充実している」と感じている学生が多く、昨年度とほぼ同じ傾向が見られた。学年による大きな違いは見られず、どの学年でも前向きな回答が中心となっている。学年により「とても充実している」と答えた学生の割合には多少の違いはあるが、全体としては安定して学生生活を送れている様子が見える。

【問3】 学生生活は何を通じて充実していますか（複数選択可）

※問2で1又は2を選択した学生のみ

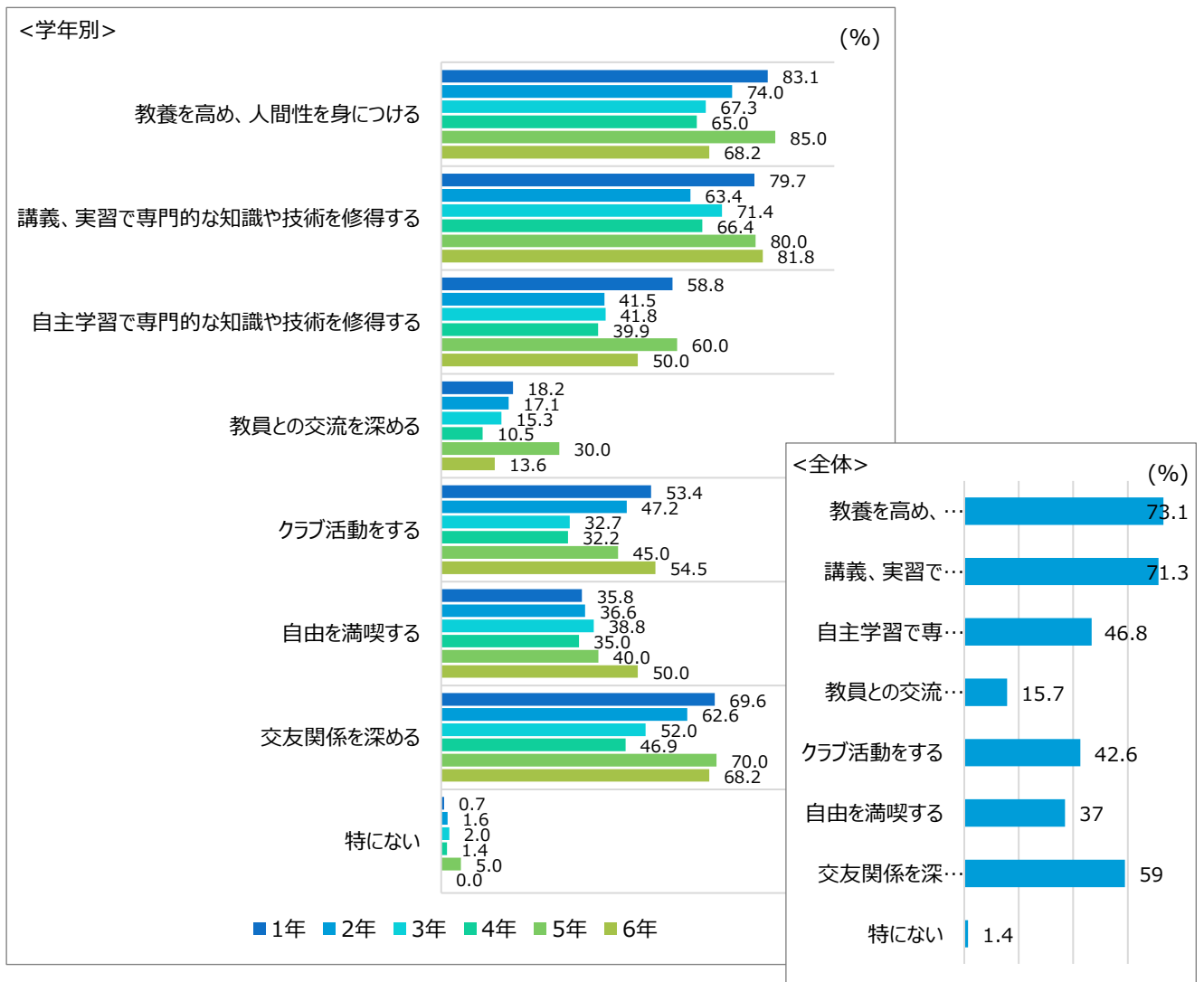
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 講義、実習等を通じて	46.7	46.8	46.6	42.2	43.2	80.0	61.1
2 クラブ活動等を通じて	66.7	81.6	72.0	55.4	55.9	46.7	55.6
3 友人との交流を通じて	80.5	84.4	78.8	81.9	75.4	80.0	88.9
4 教員との交流を通じて	5.5	4.3	2.5	4.8	7.6	20.0	11.1
5 自主学習を通じて	23.3	23.4	18.6	24.1	20.3	40.0	55.6
6 趣味、余暇、遊び等を通じて	50.3	46.1	50.0	54.2	47.5	60.0	77.8
7 家庭生活を通じて	11.4	7.1	15.3	9.6	13.6	13.3	11.1
8 ボランティア活動を通じて	1.8	0.7	3.4	2.4	0.8	6.7	0.0
計 (%)	286.2	294.3	287.3	274.7	264.4	346.7	361.1
回答者数 (人)	493	141	118	83	118	15	18



「友人との交流を通じて」と回答している学生が最も多く、昨年度と同様に高い割合となった。次いで「クラブ活動を通じて」や「講義・実習等を通じて」の充実感が続いている。学年による大きな違いは見られず、どの学年でも友人関係や日常の活動が学生生活を支える要素になっているとかがえる。一方で、ボランティア活動を通じた充実は全体的に低く、活動機会の差が影響している可能性がある。

【問4】 大学生活で大切なことは（複数選択可）

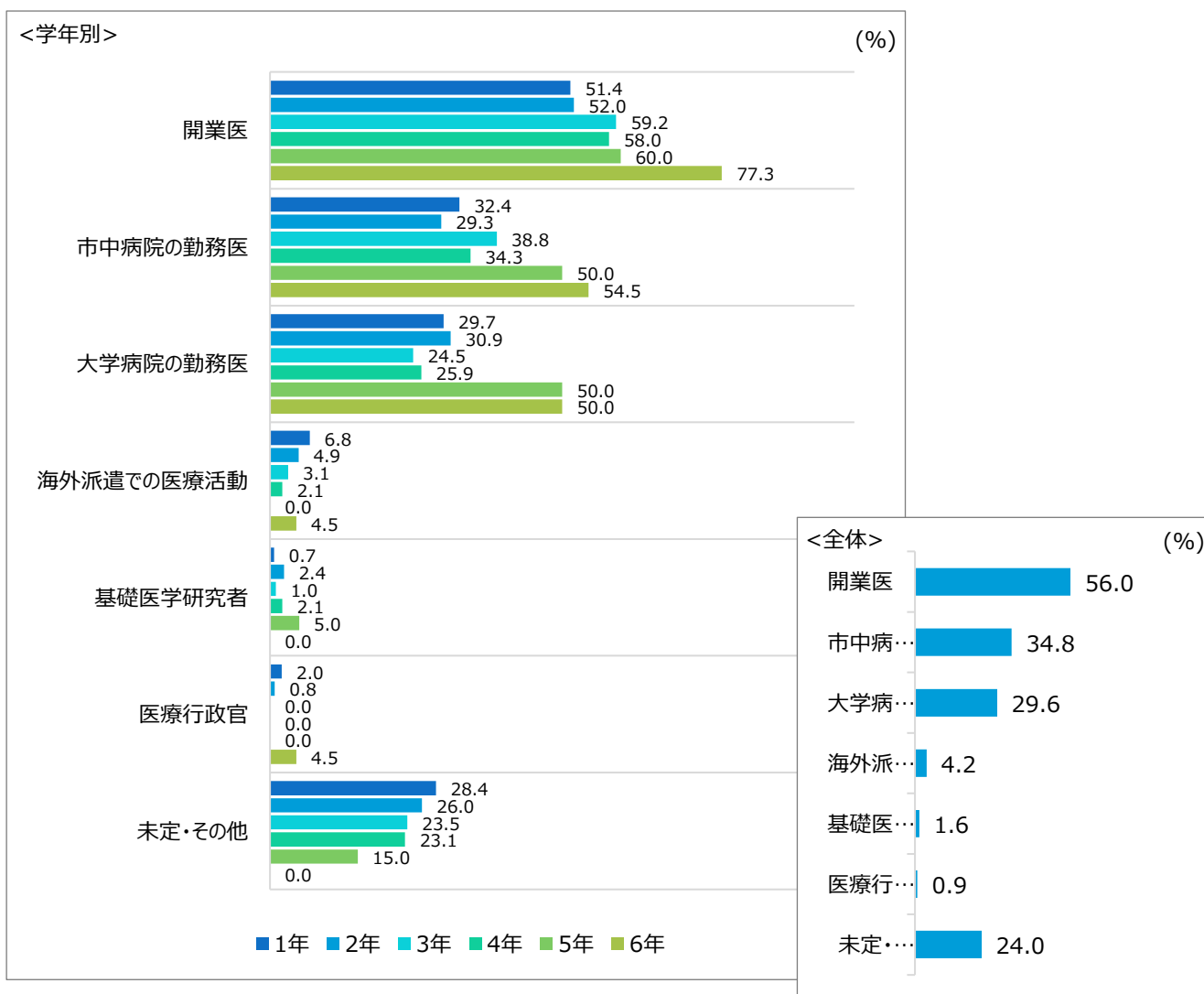
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 教養を高め、人間性を身につける	73.1	83.1	74.0	67.3	65.0	85.0	68.2
2 講義、実習で専門的な知識や技術を修得する	71.3	79.7	63.4	71.4	66.4	80.0	81.8
3 自主学習で専門的な知識や技術を修得する	46.8	58.8	41.5	41.8	39.9	60.0	50.0
4 教員との交流を深める	15.7	18.2	17.1	15.3	10.5	30.0	13.6
5 クラブ活動をする	42.6	53.4	47.2	32.7	32.2	45.0	54.5
6 自由を満喫する	37.0	35.8	36.6	38.8	35.0	40.0	50.0
7 交友関係を深める	59.0	69.6	62.6	52.0	46.9	70.0	68.2
8 特にない	1.4	0.7	1.6	2.0	1.4	5.0	0.0
計 (%)	346.9	399.3	343.9	321.4	297.2	415.0	386.4
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「教養を高め、人間性を身につける」や「講義・実習で専門的な知識や技術を修得する」が以前同様多くの学生に選ばれている。また、今年度は「クラブ活動をする」と「交友関係を深める」の割合が昨年度より増えており、仲間とのつながりや活動を重視する傾向がやや高まった様子がうかがえる。学年別でも大きな差はなく、学修面と人間関係の双方を大切にしている姿が見られた。

【問5】 将来の進路は（複数選択可）

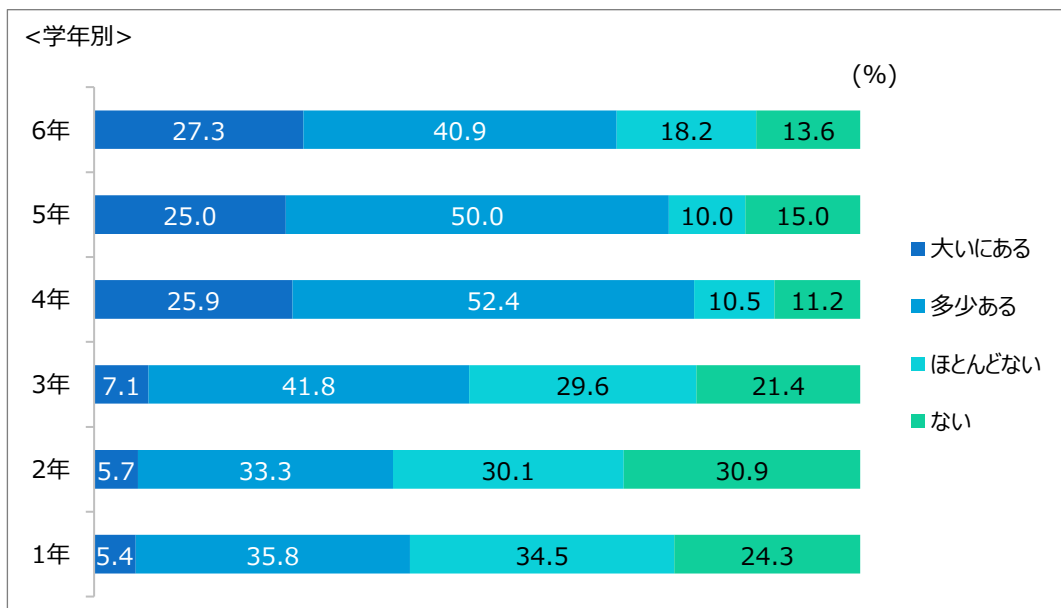
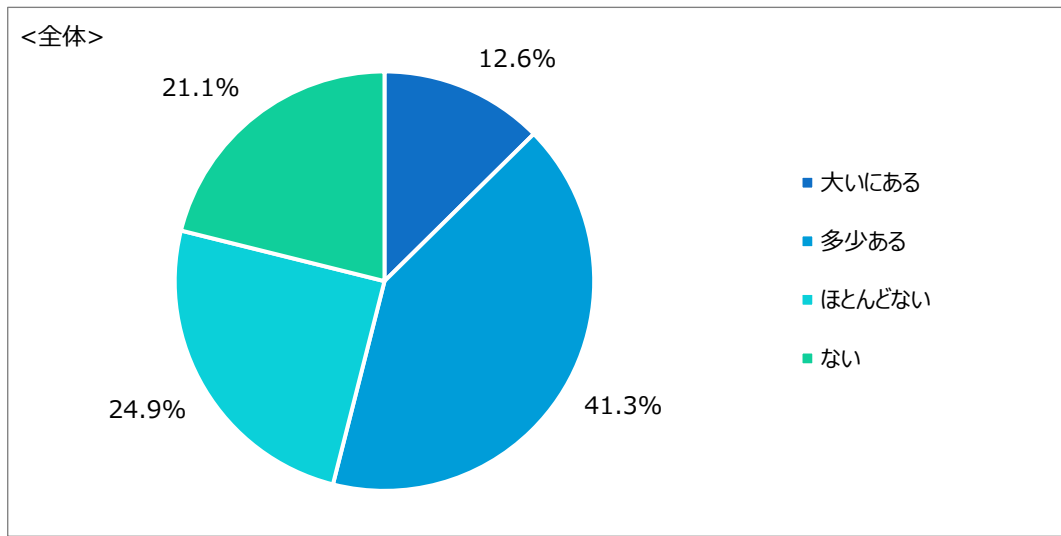
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 開業医	56.0	51.4	52.0	59.2	58.0	60.0	77.3
2 市中病院の勤務医	34.8	32.4	29.3	38.8	34.3	50.0	54.5
3 大学病院の勤務医	29.6	29.7	30.9	24.5	25.9	50.0	50.0
4 海外派遣での医療活動	4.2	6.8	4.9	3.1	2.1	0.0	4.5
5 基礎医学研究者	1.6	0.7	2.4	1.0	2.1	5.0	0.0
6 医療行政官	0.9	2.0	0.8	0.0	0.0	0.0	4.5
7 未定・その他	24.0	28.4	26.0	23.5	23.1	15.0	0.0
計 (%)	151.1	151.4	146.3	150.0	145.5	180.0	190.9
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



今年度も「開業医」を希望する学生が半数を超え、昨年度同様に多く選ばれる結果となった。一方で、「未定・その他」と回答する学生が全学年で増えており、進路選択に迷う学生がやや増加している様子が見られる。また、5・6年生では「大学病院の勤務医」を選ぶ割合が半数に達しており、臨床実習を経て進路の具体化が進んでいることが示唆される。全体として、多様な進路を視野に入れつつ検討している様子が見られた。

【問6】 現在、悩みや不安がありますか

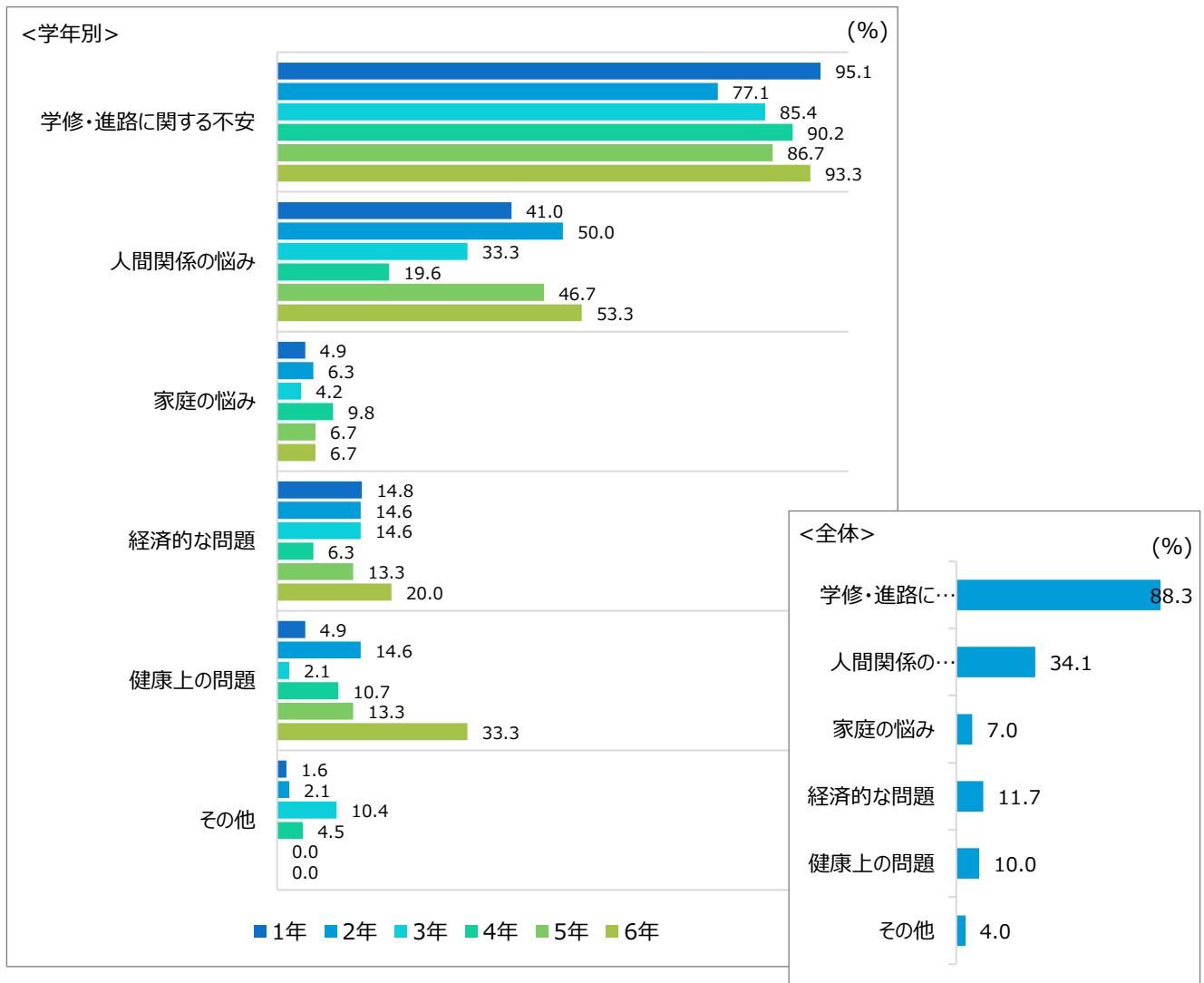
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 大いにある	12.6	5.4	5.7	7.1	25.9	25.0	27.3
2 多少ある	41.3	35.8	33.3	41.8	52.4	50.0	40.9
3 ほとんどない	24.9	34.5	30.1	29.6	10.5	10.0	18.2
4 ない	21.1	24.3	30.9	21.4	11.2	15.0	13.6
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「大いにある」「多少ある」と感じている学生が全体の多くを占め、日常的に何かしらの気がかりを抱えながら学生生活を送っている様子が見られた。学年により程度の違いはあるものの、多くの学生が同じように悩みを抱えている状況がうかがえる。「ない」と回答した割合も一定数あり、学生によって感じ方の幅があることが示された。全体として、悩みを共有しやすい環境づくりが大切であることが読み取れる。

【問7】 どのような悩みですか（複数選択可）
 ※問 5,6で 1又は 2 を選択した学生のみ

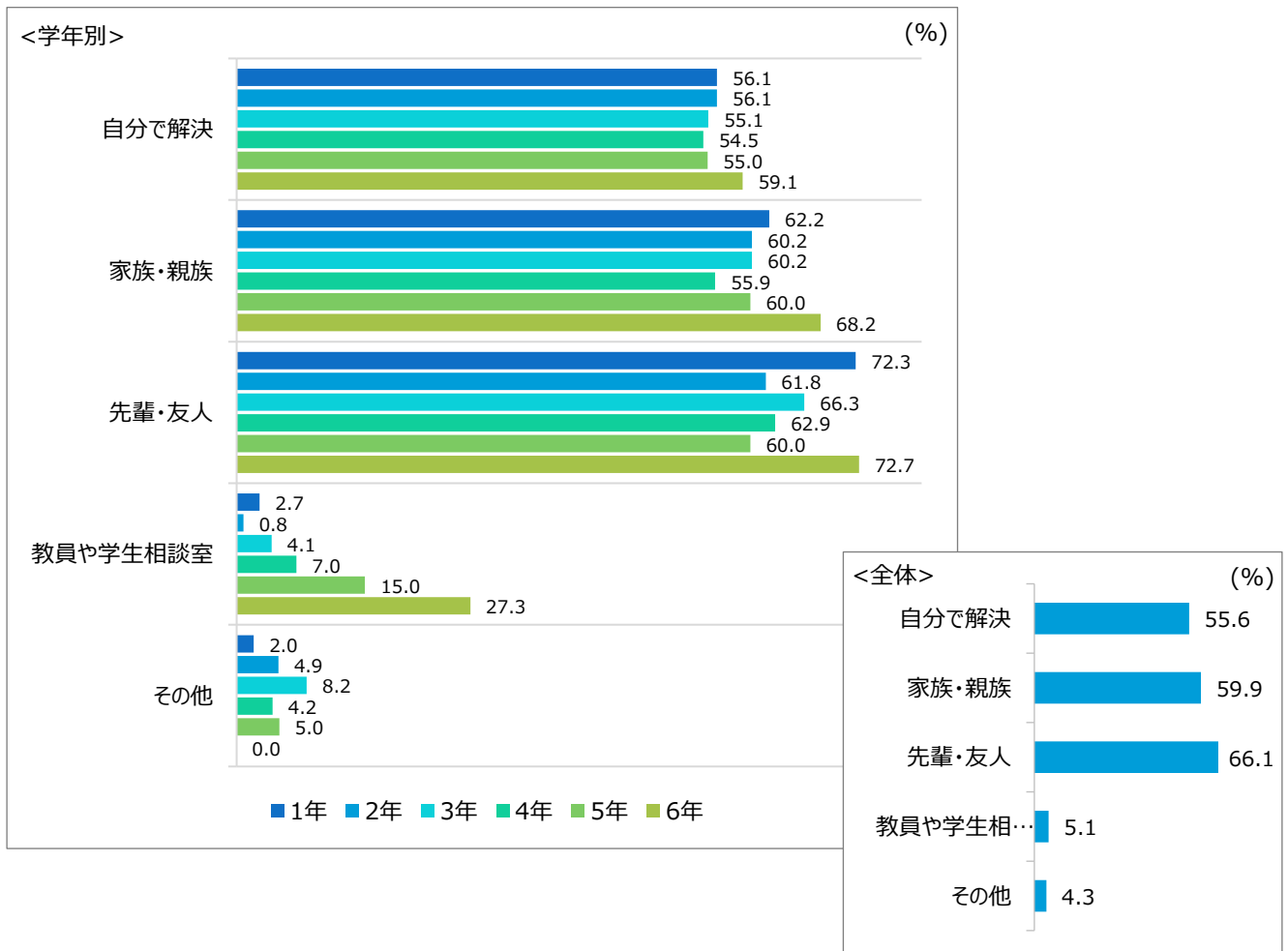
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 学修・進路に関する不安	88.3	95.1	77.1	85.4	90.2	86.7	93.3
2 人間関係の悩み	34.1	41.0	50.0	33.3	19.6	46.7	53.3
3 家庭の悩み	7.0	4.9	6.3	4.2	9.8	6.7	6.7
4 経済的な問題	11.7	14.8	14.6	14.6	6.3	13.3	20.0
5 健康上の問題	10.0	4.9	14.6	2.1	10.7	13.3	33.3
6 その他	4.0	1.6	2.1	10.4	4.5	0.0	0.0
計 (%)	155.2	162.3	164.6	150.0	141.1	166.7	206.7
回答者数 (人)	299	61	48	48	112	15	15



「学修・進路に関する不安」を選択する学生が最も多く、昨年度と同様に多くの学生が学業面での心配を抱えていることが分かった。今年度は特に、「人間関係の悩み」や「健康上の問題」を選ぶ学生が大幅に増えており、生活環境や心身の変化が影響している可能性がある。学年ごとに多少の違いはあるが、複数の悩みを抱えながら生活している学生が多いことがうかがえる。悩みを相談しやすい場づくりの重要性が示唆される結果となった。

【問8】 悩みや不安等の相談相手は（複数選択可）

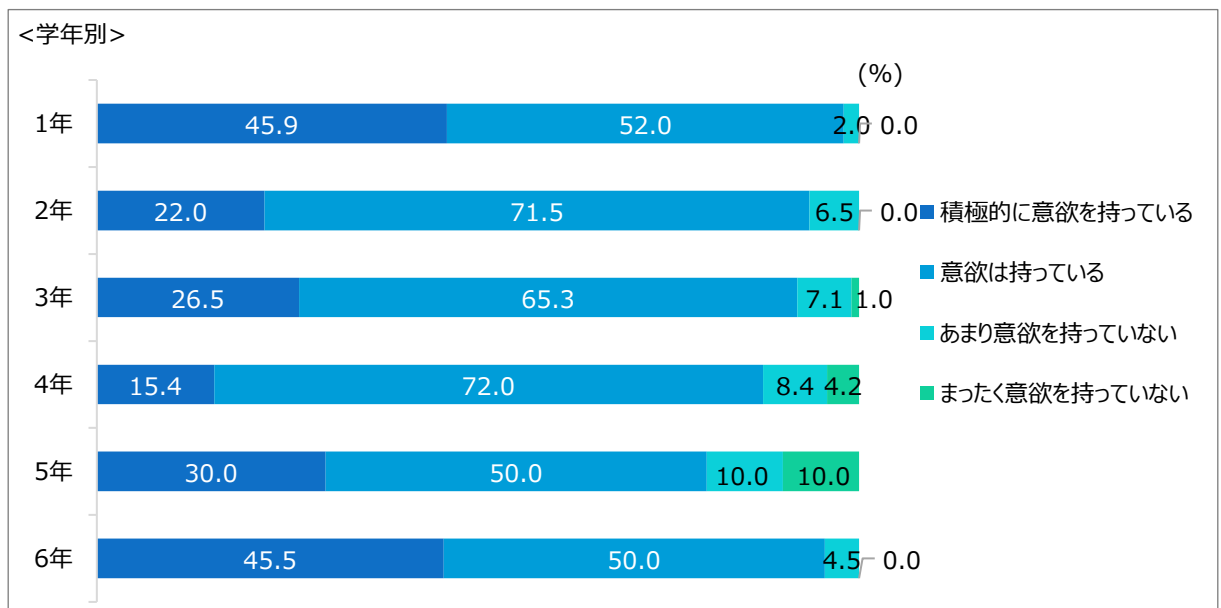
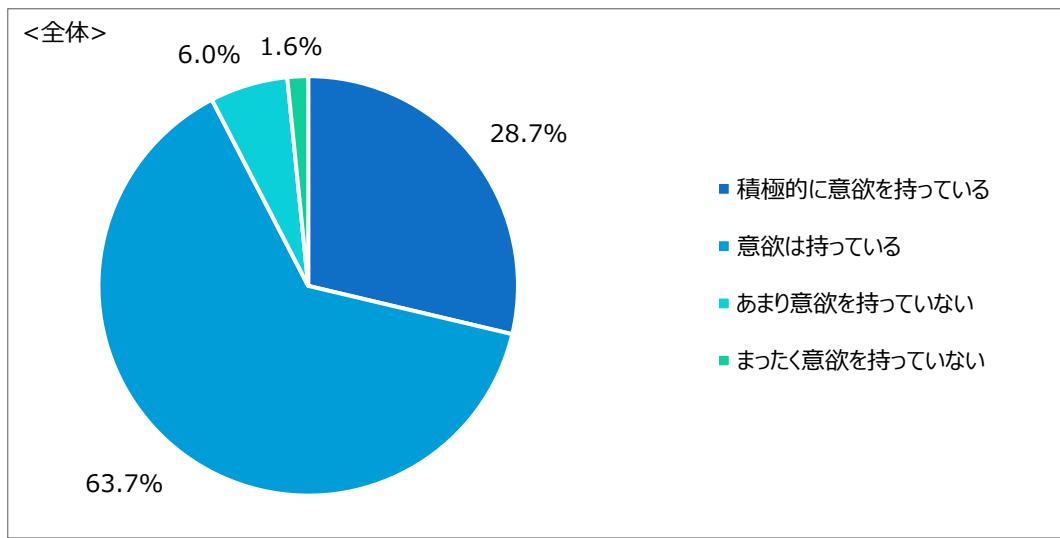
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 自分で解決	55.6	56.1	56.1	55.1	54.5	55.0	59.1
2 家族・親族	59.9	62.2	60.2	60.2	55.9	60.0	68.2
3 先輩・友人	66.1	72.3	61.8	66.3	62.9	60.0	72.7
4 教員や学生相談室	5.1	2.7	0.8	4.1	7.0	15.0	27.3
5 その他	4.3	2.0	4.9	8.2	4.2	5.0	0.0
計 (%)	191.0	195.3	183.7	193.9	184.6	195.0	227.3
回答者数 (人)	554.0	148	123	98	143	20	22



「先輩・友人」や「家族・親族」を頼る学生が多く、例年同様の傾向が見られた。一方で、今年度は高学年になるにつれて「教員や学生相談室」を利用する割合がやや増えており、学年が上がるにつれて専門的な相談先を意識する学生が増えている様子もうかがえる。全体としては、身近な人とのつながりを大切にしながら、それぞれに合った方法で悩みに向き合っている様子が読み取れる。

【問9】 授業・学修に対する意欲は

	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 積極的に意欲を持っている	28.7	45.9	22.0	26.5	15.4	30.0	45.5
2 意欲は持っている	63.7	52.0	71.5	65.3	72.0	50.0	50.0
3 あまり意欲を持っていない	6.0	2.0	6.5	7.1	8.4	10.0	4.5
4 まったく意欲を持っていない	1.6	0.0	0.0	1.0	4.2	10.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22

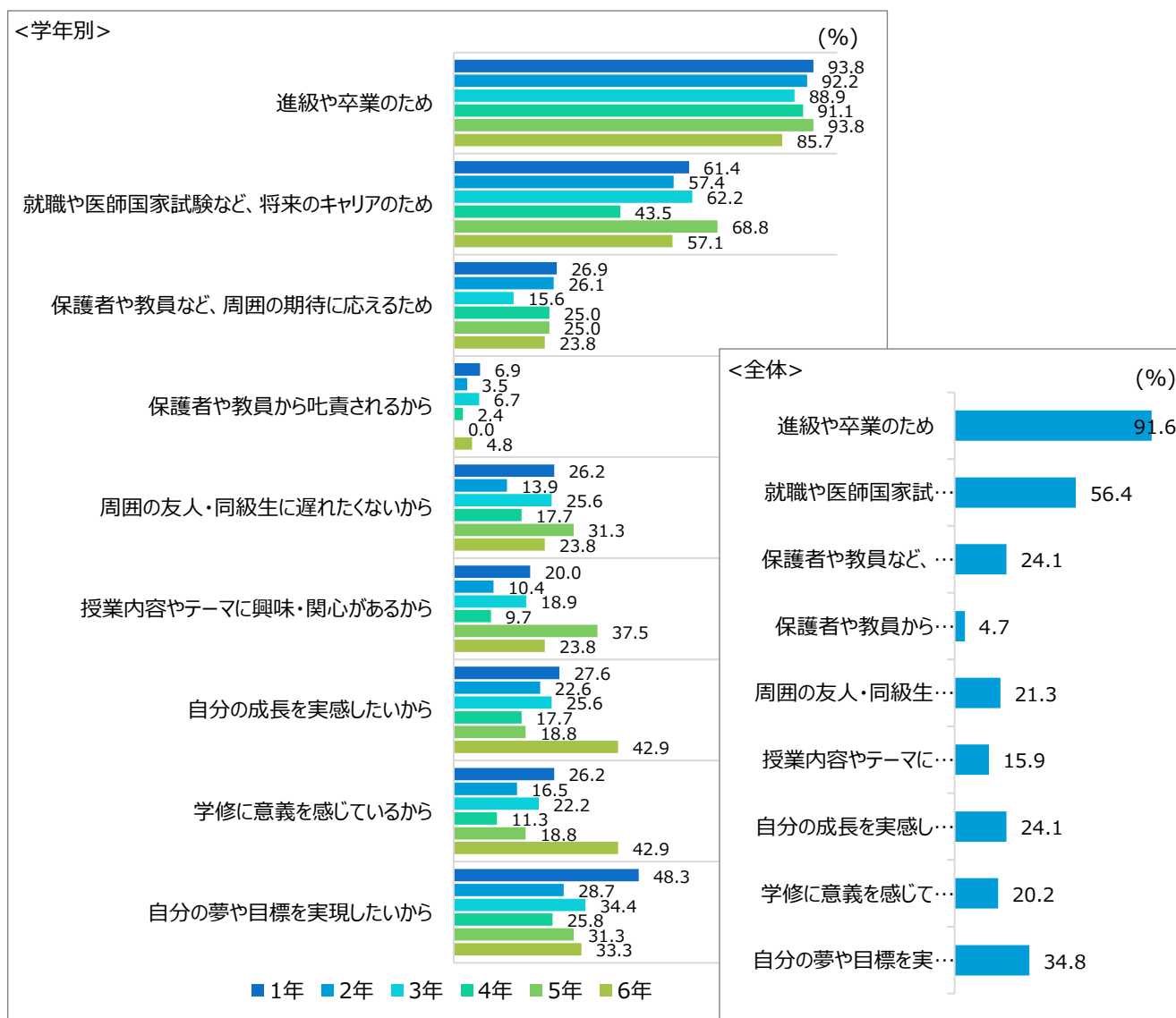


「意欲は持っている」と回答している学生が最も多く、全体として前向きに学修へ取り組もうとする姿勢がうかがえる。学年による大きな違いは見られず、いずれの学年でもおおむね半数以上が前向きな回答を示している。一方で、「あまり意欲を持っていない」と回答する学生も一定数おり、学年によってはばらつきが見られる部分もある。全体として、学生が自分のペースで学修に向き合っている様子が感じられる結果となった。

【問10】 授業・学修に対するモチベーションの源は何ですか（複数選択可）

※問9で1・2を選択学生のみ

	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 進級や卒業のため	91.6	93.8	92.2	88.9	91.1	93.8	85.7
2 就職や医師国家試験など、将来のキャリアのため	56.4	61.4	57.4	62.2	43.5	68.8	57.1
3 保護者や教員など、周囲の期待に応えるため	24.1	26.9	26.1	15.6	25.0	25.0	23.8
4 保護者や教員から叱責されるから	4.7	6.9	3.5	6.7	2.4	0.0	4.8
5 周囲の友人・同級生に遅れたくないから	21.3	26.2	13.9	25.6	17.7	31.3	23.8
6 授業内容やテーマに興味・関心があるから	15.9	20.0	10.4	18.9	9.7	37.5	23.8
7 自分の成長を実感したいから	24.1	27.6	22.6	25.6	17.7	18.8	42.9
8 学修に意義を感じているから	20.2	26.2	16.5	22.2	11.3	18.8	42.9
9 自分の夢や目標を実現したいから	34.8	48.3	28.7	34.4	25.8	31.3	33.3
計 (%)	293.0	337.2	271.3	300.0	244.4	325.0	338.1
回答者数 (人)	511	145	115	90	124	16	21

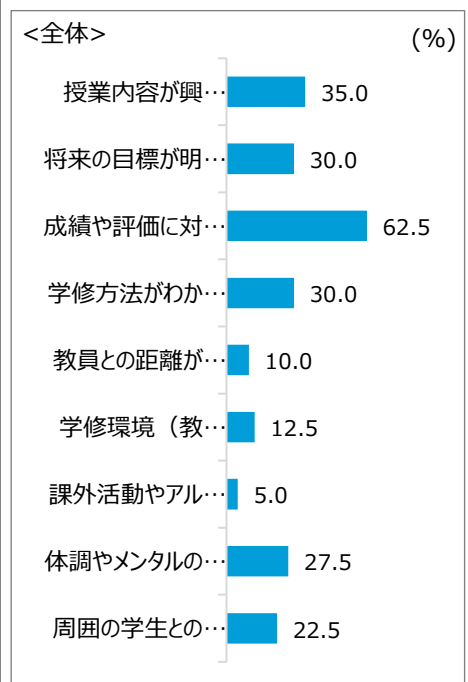
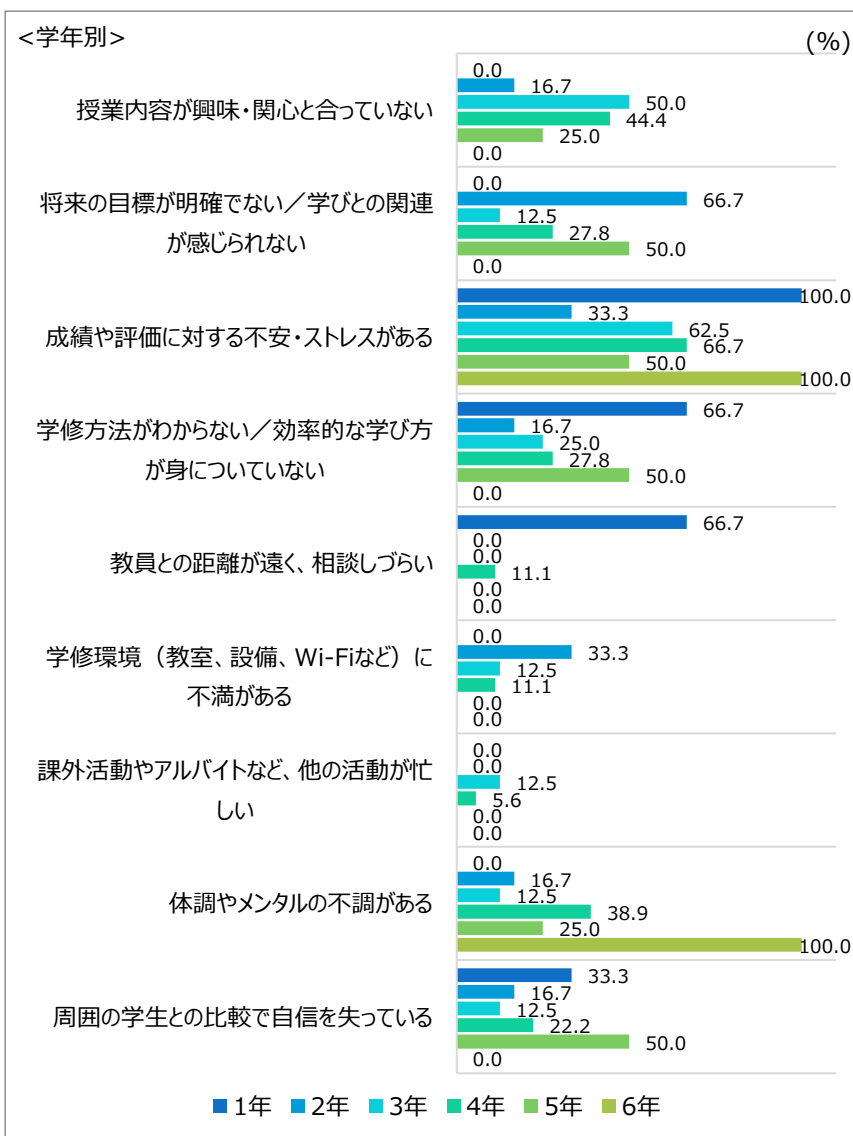


「進級や卒業のため」を選択する学生が最も多く、多くの学生が学修を着実に進めることを大きな目的としている様子が分かる。次いで「就職や医師国家試験など、将来のキャリアのため」が続き、将来を見据えた学修意欲も高い傾向にある。一方で、「自分の夢や目標を実現したいから」や「自分の成長を実感したいから」といった前向きな回答も一定数見られ、学年によって割合に違いはあるものの、学生一人ひとりが多様な動機を持って学修に取り組んでいる様子がうかがえる。

【問11】 授業・学修にあまり意欲を持ってない理由は何ですか（複数選択可）

※問9で3・4を選択学生のみ

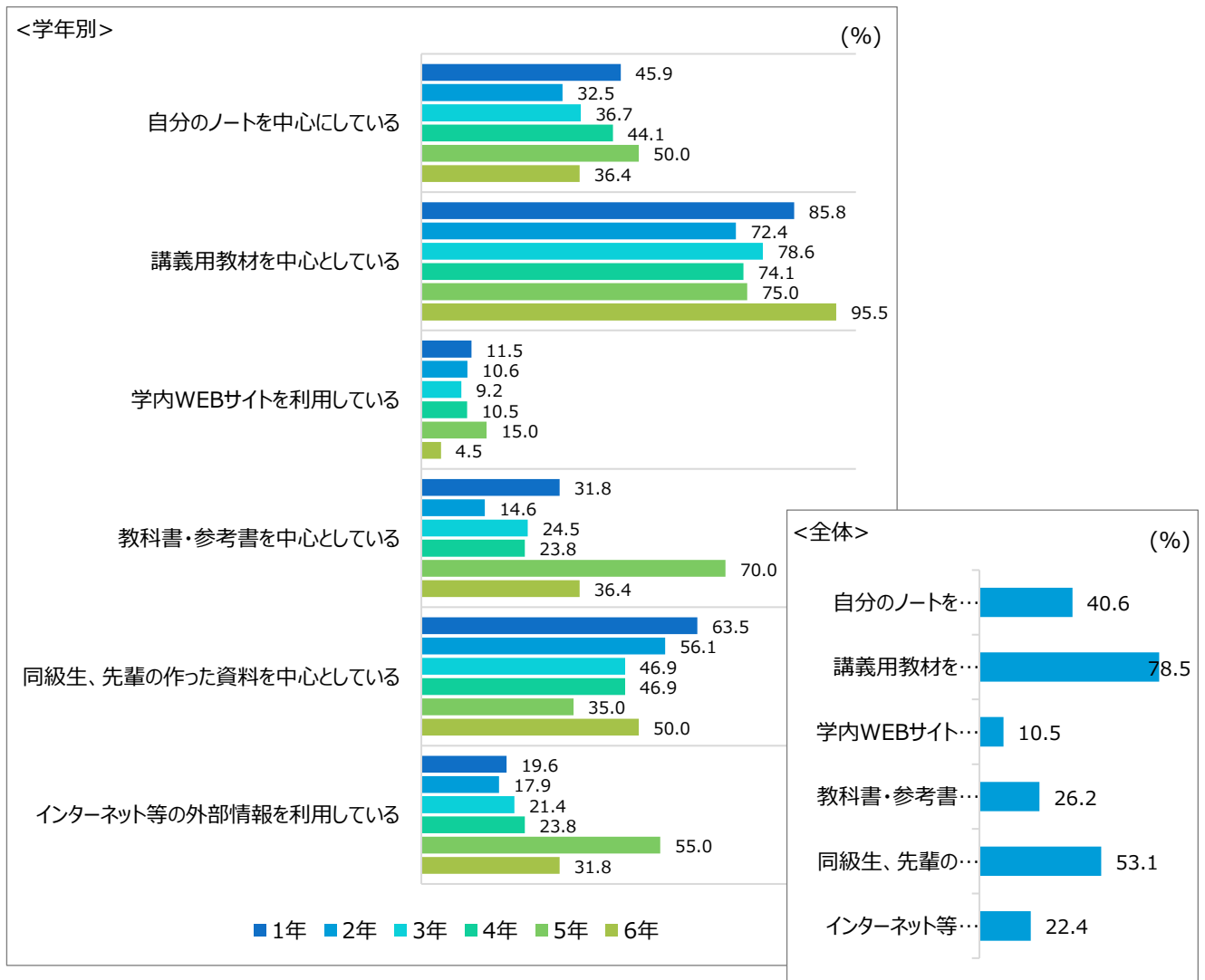
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 授業内容が興味・関心と合っていない	35.0	0.0	16.7	50.0	44.4	25.0	0.0
2 将来の目標が明確でない／学びとの関連が感じられない	30.0	0.0	66.7	12.5	27.8	50.0	0.0
3 成績や評価に対する不安・ストレスがある	62.5	100.0	33.3	62.5	66.7	50.0	100.0
4 学修方法がわからない／効率的な学び方が身についていない	30.0	66.7	16.7	25.0	27.8	50.0	0.0
5 教員との距離が遠く、相談しづらい	10.0	66.7	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
6 学修環境（教室、設備、Wi-Fiなど）に不満がある	12.5	0.0	33.3	12.5	11.1	0.0	0.0
7 課外活動やアルバイトなど、他の活動が忙しい	5.0	0.0	0.0	12.5	5.6	0.0	0.0
8 体調やメンタルの不調がある	27.5	0.0	16.7	12.5	38.9	25.0	100.0
9 周囲の学生との比較で自信を失っている	22.5	33.3	16.7	12.5	22.2	50.0	0.0
計 (%)	235.0	266.7	200.0	200.0	255.6	250.0	200.0
回答者数 (人)	40	3	6	8	18	4	1



「成績や評価に対する不安・ストレスがある」と回答している学生が最も多く、学修へのプレッシャーを強く感じている学生が一定数いることが分かる。次いで「授業内容が興味・関心と合っていない」「将来の目標が明確でない／学びとの関連が感じられない」といった回答が続き、学修の方向性や内容との結びつきに悩む様子もうかがえる。学年別では特徴にばらつきがあるものの、体調やメンタル面の不調、学修方法への不安など、複数の要因が意欲低下につながっていることが示されている。

【問12】学修の方法は（複数選択可）

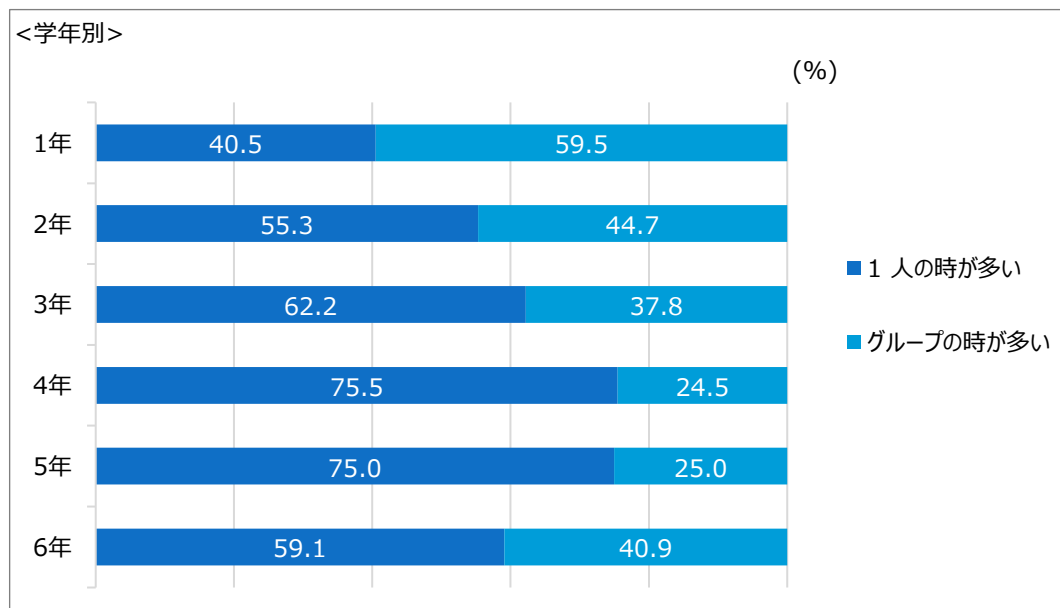
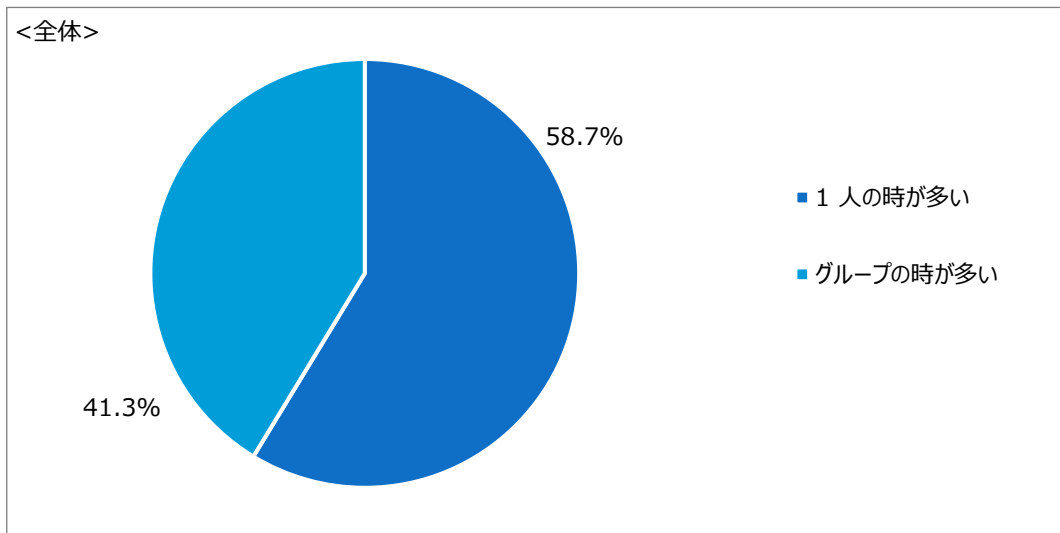
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 自分のノートを中心に行っている	40.6	45.9	32.5	36.7	44.1	50.0	36.4
2 講義用教材を中心に行っている	78.5	85.8	72.4	78.6	74.1	75.0	95.5
3 学内WEBサイトを利用している	10.5	11.5	10.6	9.2	10.5	15.0	4.5
4 教科書・参考書を中心に行っている	26.2	31.8	14.6	24.5	23.8	70.0	36.4
5 同級生、先輩の作った資料を中心に行っている	53.1	63.5	56.1	46.9	46.9	35.0	50.0
6 インターネット等の外部情報を利用している	22.4	19.6	17.9	21.4	23.8	55.0	31.8
計 (%)	231.3	258.1	204.1	217.3	223.2	300.0	254.6
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	0	22



「講義用教材を中心に行っている」と回答している学生が最も多く、多くの学生が授業で示された資料を軸に学修を進めていることが分かる。また、「同級生、先輩の作った資料を中心に行っている」や「自分のノートを中心に行っている」の学生も多く、身近な情報源を組み合わせながら学んでいる様子が見えてくる。学年別では多少の違いはあるものの、全体的な傾向は例年と大きく変わっていない。学修スタイルがある程度定着しており、学生それぞれが自分に合った方法を選んでいることが読み取れる。

【問13】 誰と学修していますか

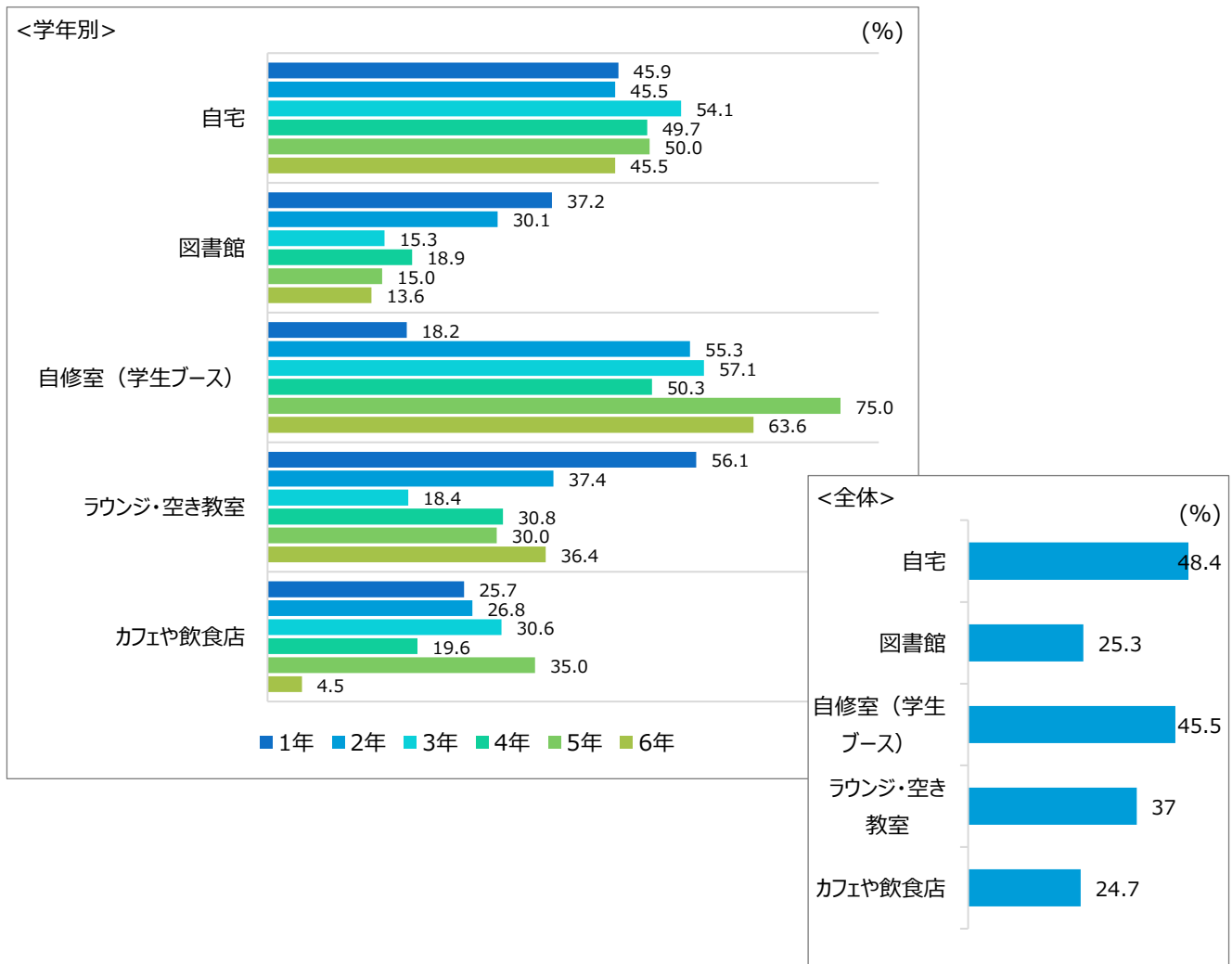
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 1人の時が多い	58.7	40.5	55.3	62.2	75.5	75.0	59.1
2 グループの時が多い	41.3	59.5	44.7	37.8	24.5	25.0	40.9
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「1人の時が多い」と回答している学生がやや多いものの、「グループの時が多い」という回答も一定数あり、今年度も昨年度とほぼ同じ傾向が見られた。一方で、数年前の結果と比べると、どの学年でも「1人で学修する」割合が高かった時期があり、近年はグループで学ぶ場面が増えていることがうかがえる。

【問14】 どこで学修することが多いですか（複数選択可）

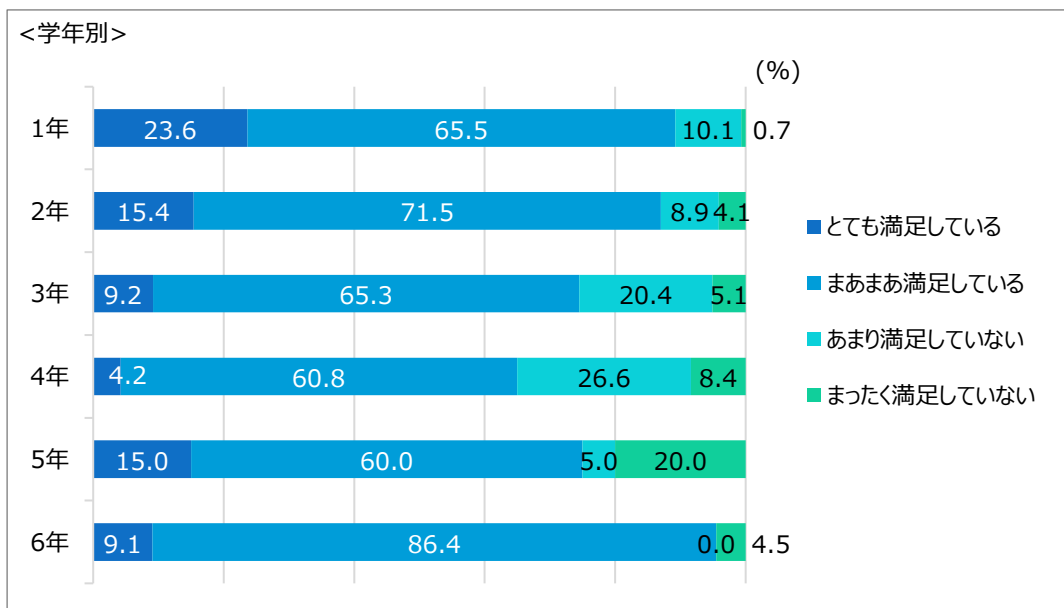
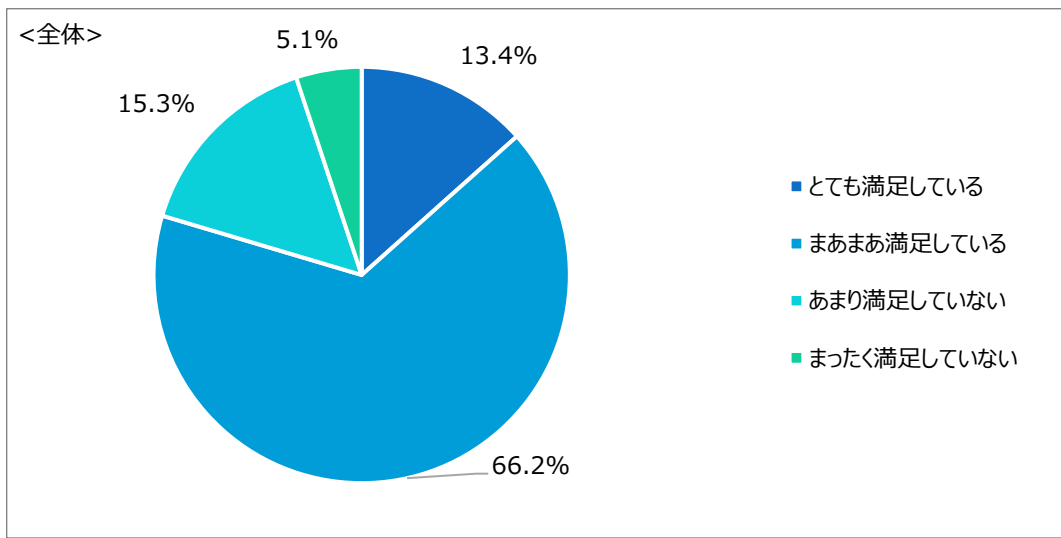
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 自宅	48.4	45.9	45.5	54.1	49.7	50.0	45.5
2 図書館	25.3	37.2	30.1	15.3	18.9	15.0	13.6
3 自修室（学生ブース）	45.5	18.2	55.3	57.1	50.3	75.0	63.6
4 ラウンジ・空き教室	37	56.1	37.4	18.4	30.8	30.0	36.4
5 カフェや飲食店	24.7	25.7	26.8	30.6	19.6	35.0	4.5
計 (%)	180.9	183.1	195.1	175.5	169.2	205.0	163.6
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「自宅」と「自修室（学生ブース）」を利用する学生が特に多く、落ち着いて学べる環境を中心に学修を進めていることが分かる。加えて、「図書館」や「ラウンジ・空き教室」など学内の様々な場所を活用する学生も一定数おり、目的や気分に合わせて学修場所を使い分けている様子がうかがえる。

【問15】 講義に満足していますか

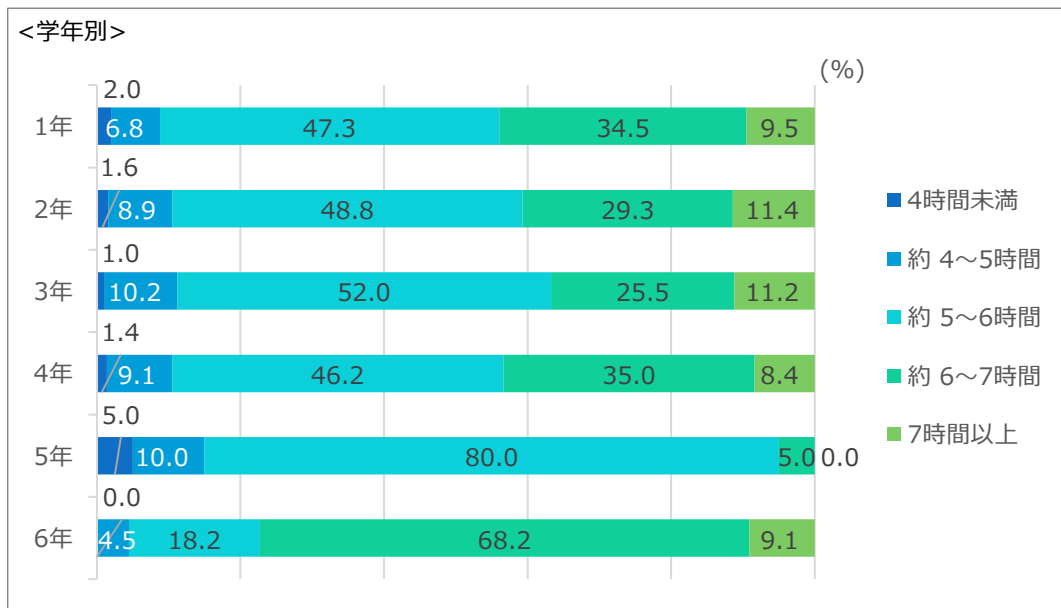
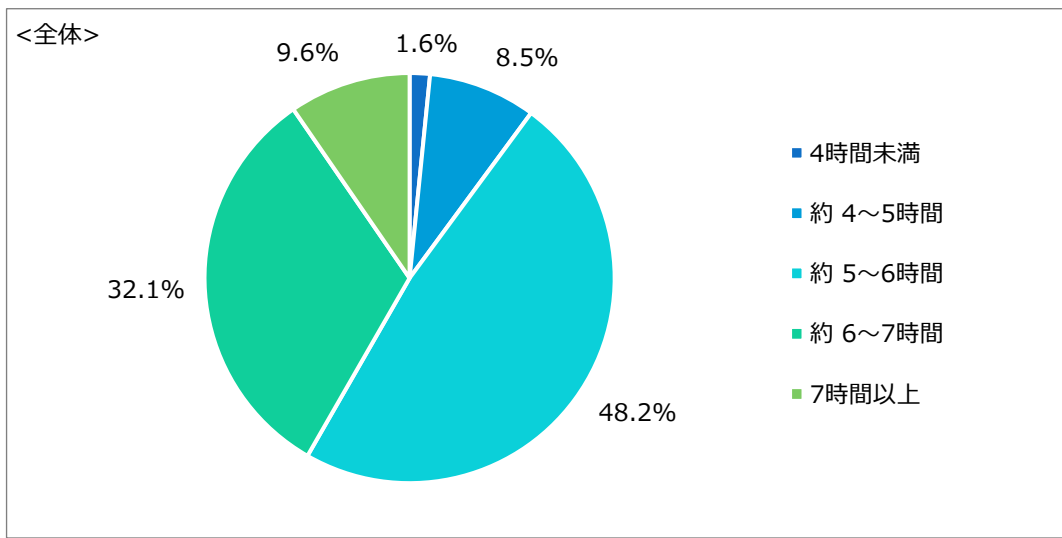
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 とても満足している	13.4	23.6	15.4	9.2	4.2	15.0	9.1
2 まあまあ満足している	66.2	65.5	71.5	65.3	60.8	60.0	86.4
3 あまり満足していない	15.3	10.1	8.9	20.4	26.6	5.0	0.0
4 まったく満足していない	5.1	0.7	4.1	5.1	8.4	20.0	4.5
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554.0	148	123	98	143	20	22



「まあまあ満足している」と回答している学生が最も多く、全体として多くの学生が講義内容に一定の満足感をもって受講している様子がうかがえる。「とても満足している」という肯定的な回答も一定数あり、一方で「まったく満足していない」と感じる学生は比較的少ない結果となった。学年による大きな違いは見られず、昨年度やそれ以前の結果ともほぼ同じ傾向が続いている。講義への満足度が安定していることが示されている。

【問16】 1日の平均睡眠時間は （試験前の期間を除く）

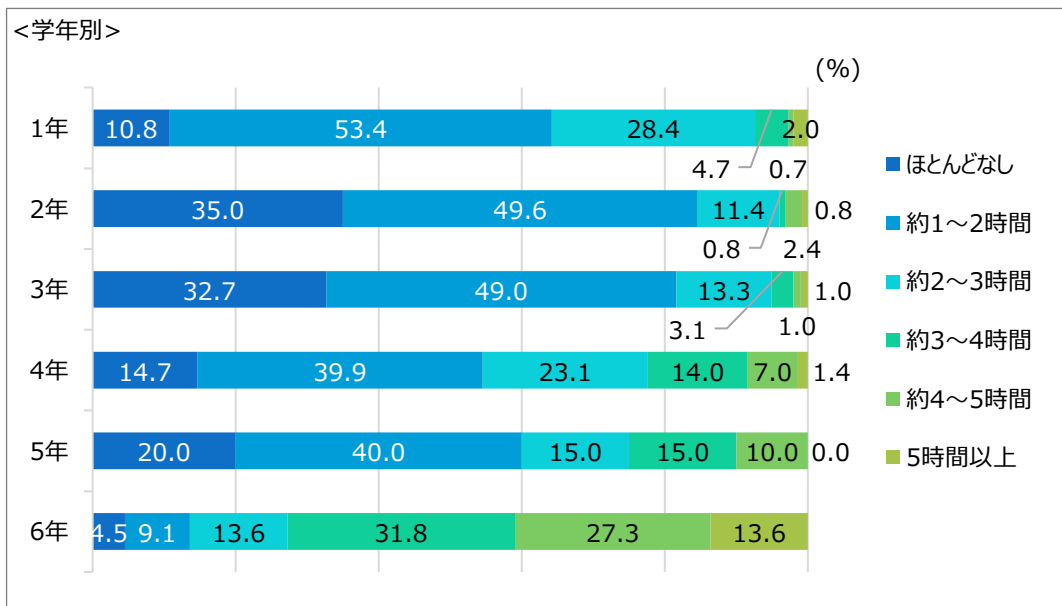
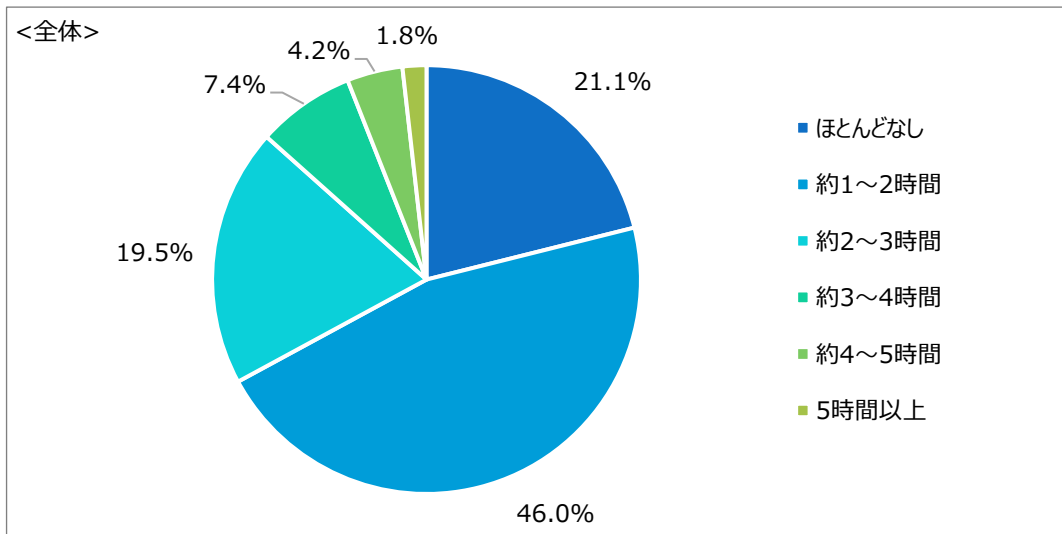
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 4時間未満	1.6	2.0	1.6	1.0	1.4	5.0	0.0
2 約 4～5時間	8.5	6.8	8.9	10.2	9.1	10.0	4.5
3 約 5～6時間	48.2	47.3	48.8	52.0	46.2	80.0	18.2
4 約 6～7時間	32.1	34.5	29.3	25.5	35.0	5.0	68.2
5 7時間以上	9.6	9.5	11.4	11.2	8.4	0.0	9.1
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「約5～6時間」と回答している学生が最も多く、全体としては以前と同じ傾向が続いている。一方で、今年度は5年生と6年生にやや偏りが見られ、特に6年生では「約6～7時間」と回答する割合が高くなっている。過去数年の結果では、どの学年でも5～6時間の層が半数以上を占めていたことから、高学年になるにつれて生活リズムが変化している可能性がうかがえる。

【問17】 1日の平均自主学習時間は（試験前の期間を除く）

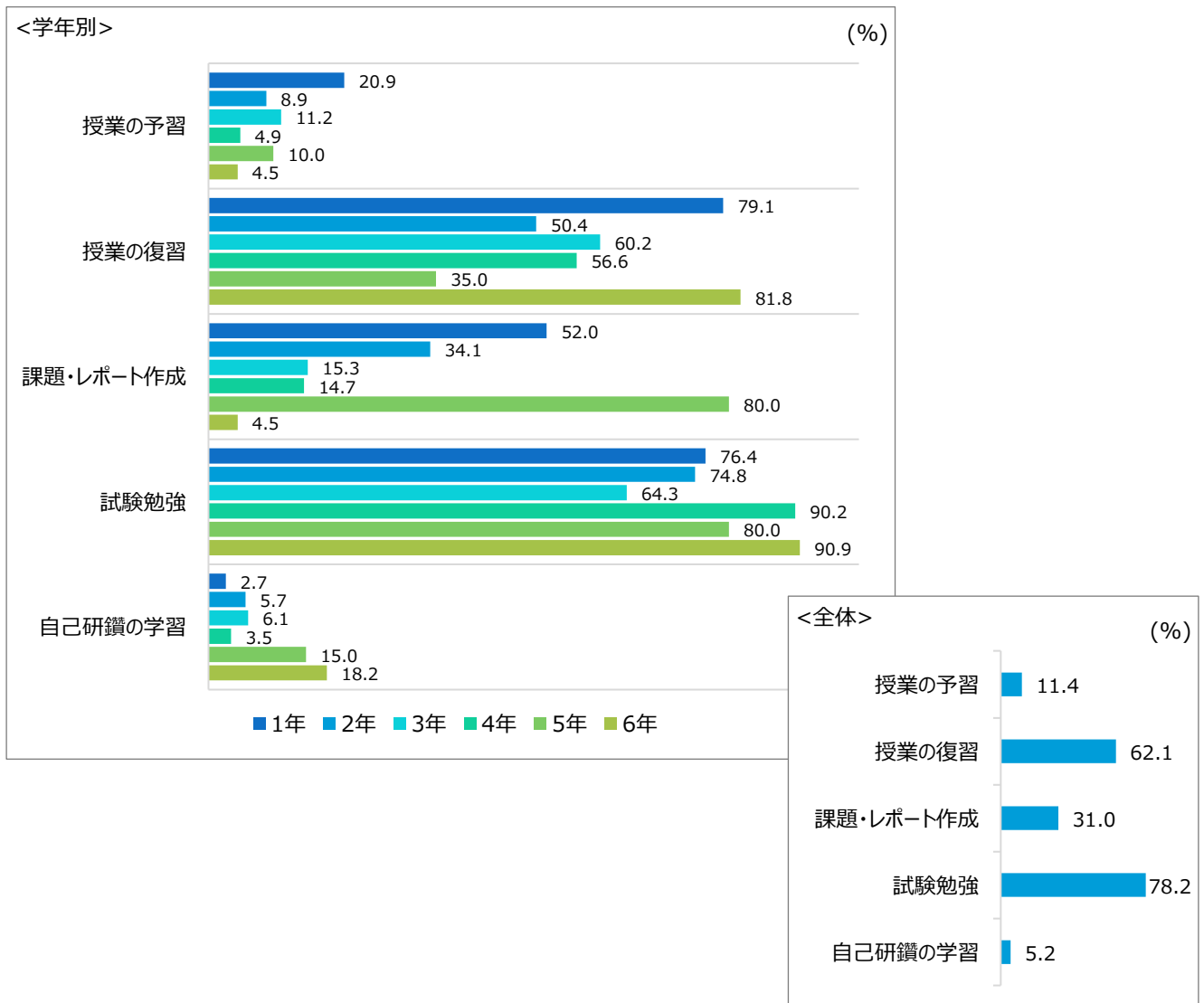
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 ほとんどなし	21.1	10.8	35.0	32.7	14.7	20.0	4.5
2 約1～2時間	46.0	53.4	49.6	49.0	39.9	40.0	9.1
3 約2～3時間	19.5	28.4	11.4	13.3	23.1	15.0	13.6
4 約3～4時間	7.4	4.7	0.8	3.1	14.0	15.0	31.8
5 約4～5時間	4.2	0.7	2.4	1.0	7.0	10.0	27.3
6 5時間以上	1.8	2.0	0.8	1.0	1.4	0.0	13.6
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「1～2時間」の短時間学習と回答している学生が最も多く、昨年度とほぼ同じ傾向が続いている。学年による大きな違いは見られず、日常的な短時間学習が定着している様子がうかがえる。一方で、3時間以上の学習に取り組む学生は少数にとどまり、長時間学習の層はこれまでと同様に限られている結果となった。

【問18】 自主学習の際に主に行っていることは何ですか（複数選択可）

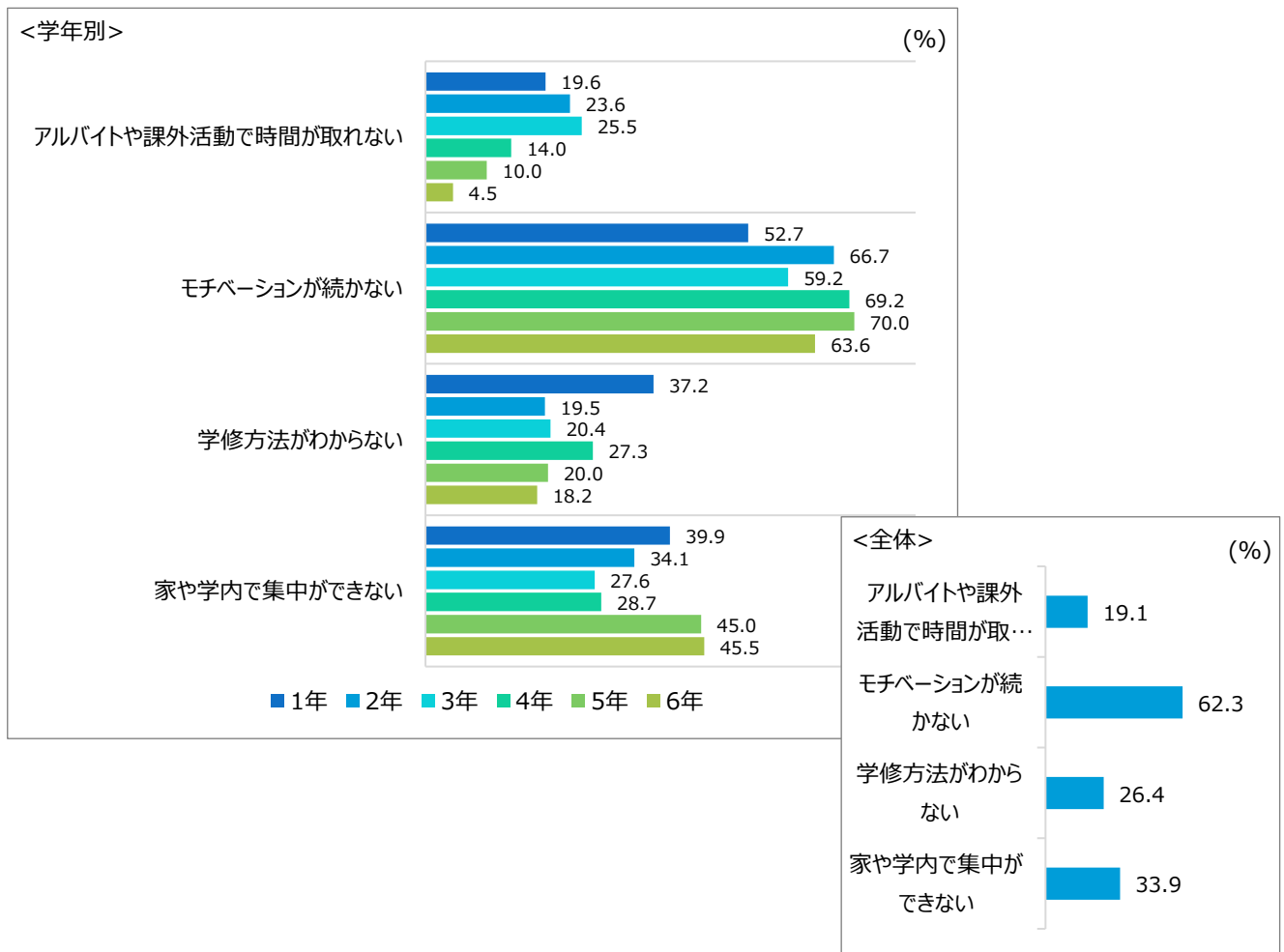
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 授業の予習	11.4	20.9	8.9	11.2	4.9	10.0	4.5
2 授業の復習	62.1	79.1	50.4	60.2	56.6	35.0	81.8
3 課題・レポート作成	31.0	52.0	34.1	15.3	14.7	80.0	4.5
4 試験勉強	78.2	76.4	74.8	64.3	90.2	80.0	90.9
5 自己研鑽の学習	5.2	2.7	5.7	6.1	3.5	15.0	18.2
計 (%)	187.9	231.1	174.0	157.1	169.9	220.0	200.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「試験勉強」や「授業の復習」が特に多く、多くの学生が日々の学修や評価に向けた準備を大切にしていることが分かる。「課題・レポート作成」も一定数見られ、授業と結びついた学習が中心になっている様子がうかがえる。一方で、「授業の予習」や「自己研鑽の学習」を挙げる学生は比較的少なく、全体としては必要な学修を着実にこなす学生が多く見られる。

【問19】 自主学習時間を確保する上での課題は何ですか（複数選択可）

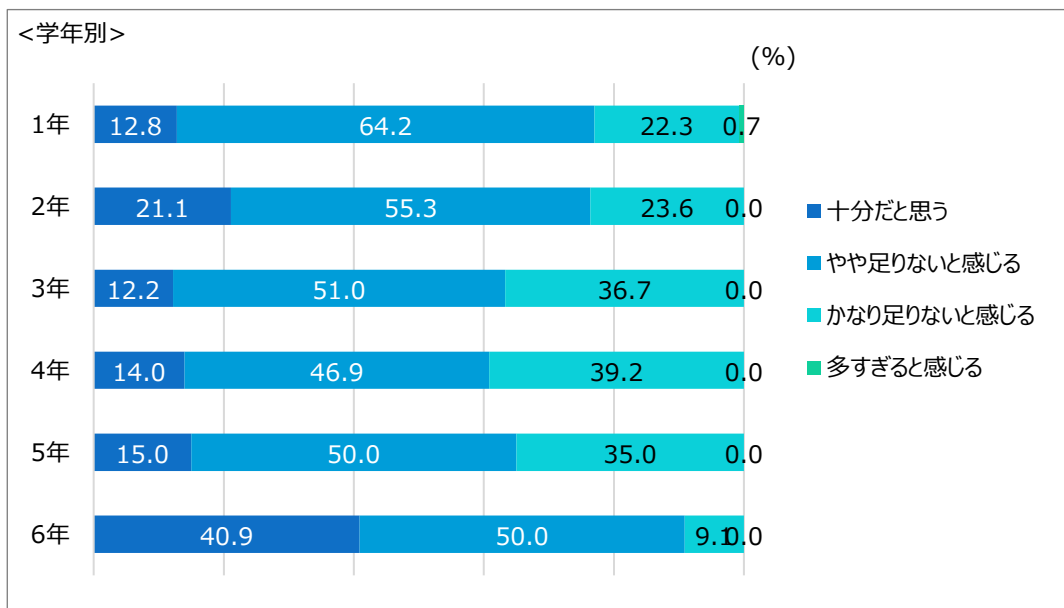
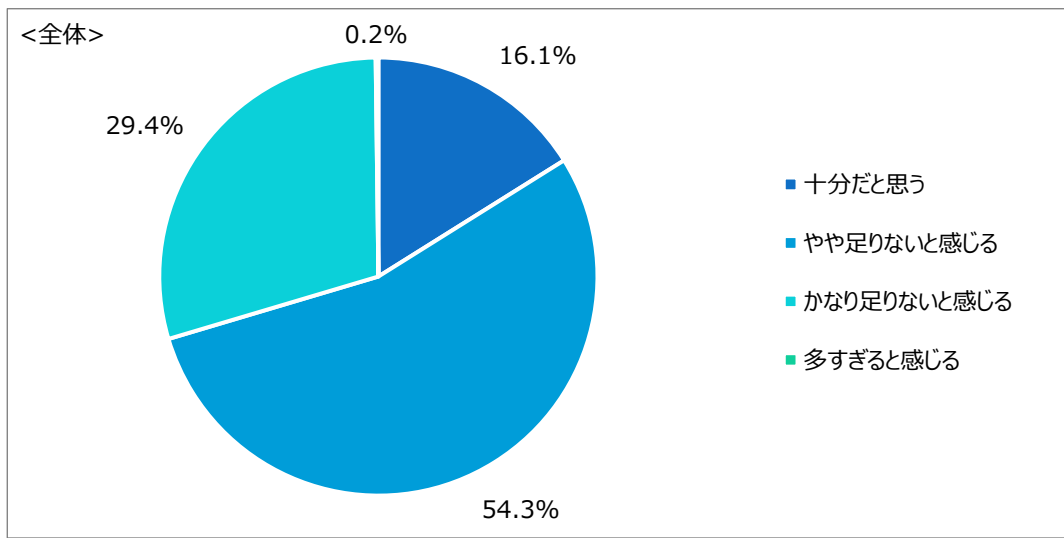
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 アルバイトや課外活動で時間が取れない	19.1	19.6	23.6	25.5	14.0	10.0	4.5
2 モチベーションが続かない	62.3	52.7	66.7	59.2	69.2	70.0	63.6
3 学修方法がわからない	26.4	37.2	19.5	20.4	27.3	20.0	18.2
4 家や学内で集中ができない	33.9	39.9	34.1	27.6	28.7	45.0	45.5
計 (%)	141.7	149.3	143.9	132.7	139.2	145.0	131.8
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「モチベーションが続かない」と回答している学生が最も多く、学習意欲の維持に悩む学生が多いことが分かる。次いで「家や学内で集中できない」「学修方法がわからない」といった回答が続き、学習環境や学び方そのものへの不安も見られる。また、「アルバイトや課外活動で時間が取れない」と回答している学生も一定数おり、学業とその他の活動の両立に苦労している様子がうかがえる。

【問20】 自主学習時間は自分にとって十分だと思いますか

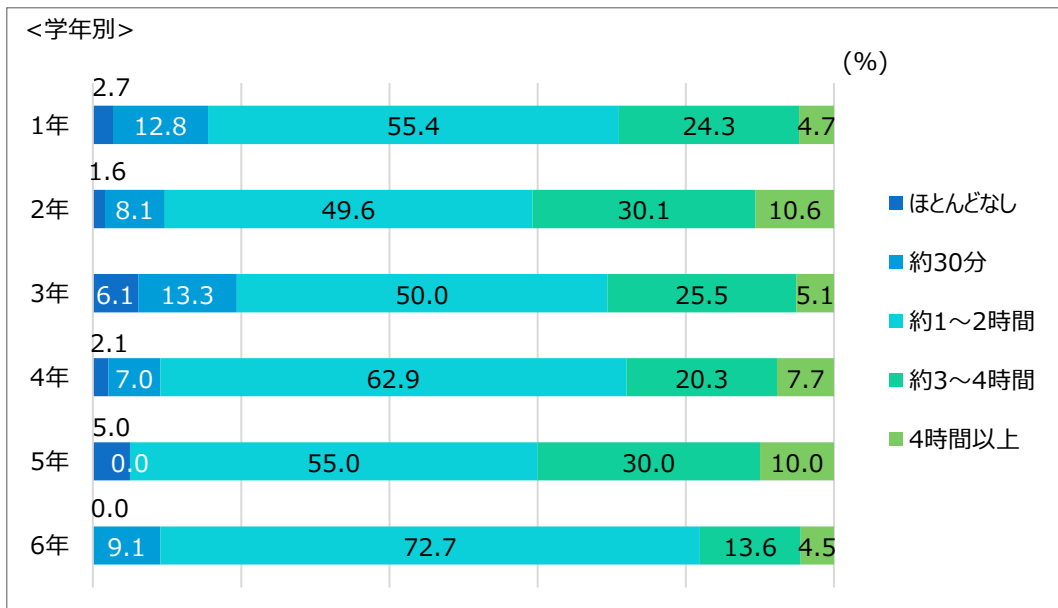
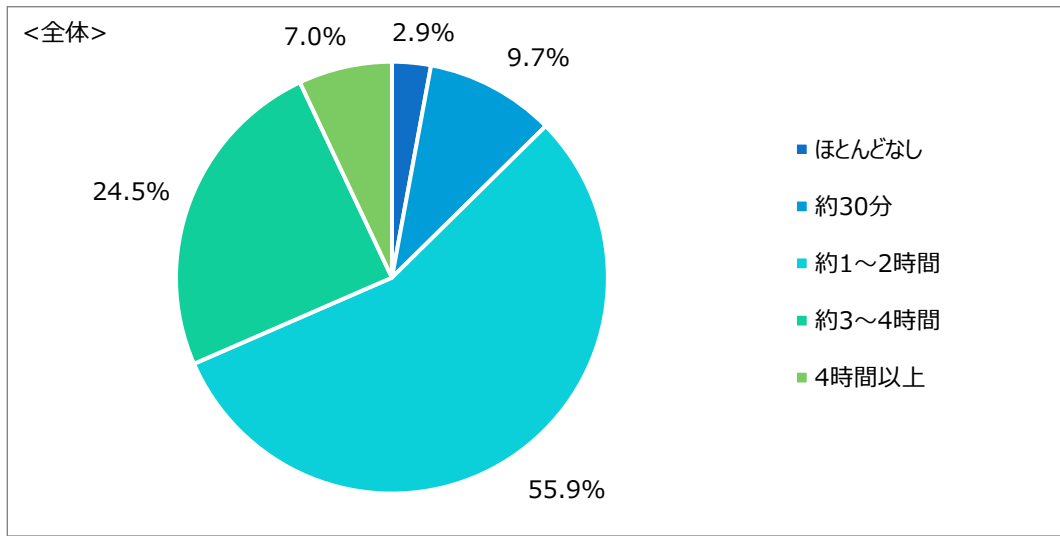
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 十分だと思う	16.1	12.8	21.1	12.2	14.0	15.0	40.9
2 やや足りないと感じる	54.3	64.2	55.3	51.0	46.9	50.0	50.0
3 かなり足りないと感じる	29.4	22.3	23.6	36.7	39.2	35.0	9.1
4 多すぎると感じる	0.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「十分だと思う」と回答している学生は一部にとどまり、多くの学生が「やや足りないと感じる」または「かなり足りないと感じる」と不足感を抱えている。学年が上がるほど「かなり足りないと感じる」割合が高まる傾向も見られ、全体として一定の充実感はあるつつも、より学習時間を確保したいという学生の思いがうかがえる。

【問21】 1日平均で、テレビ、動画配信サービス等の視聴やSNS、ゲーム等に費やす時間は

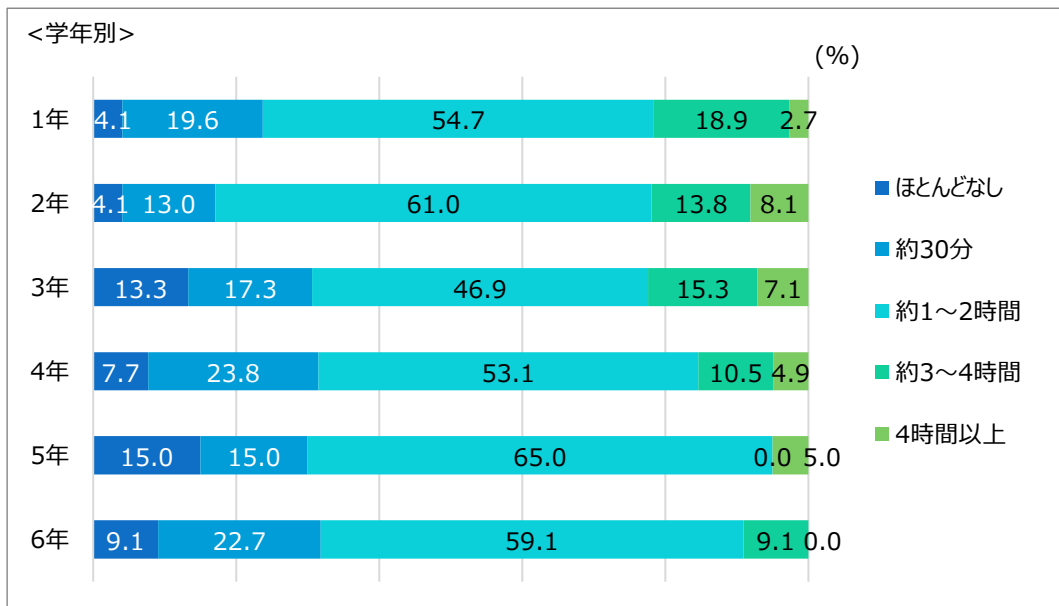
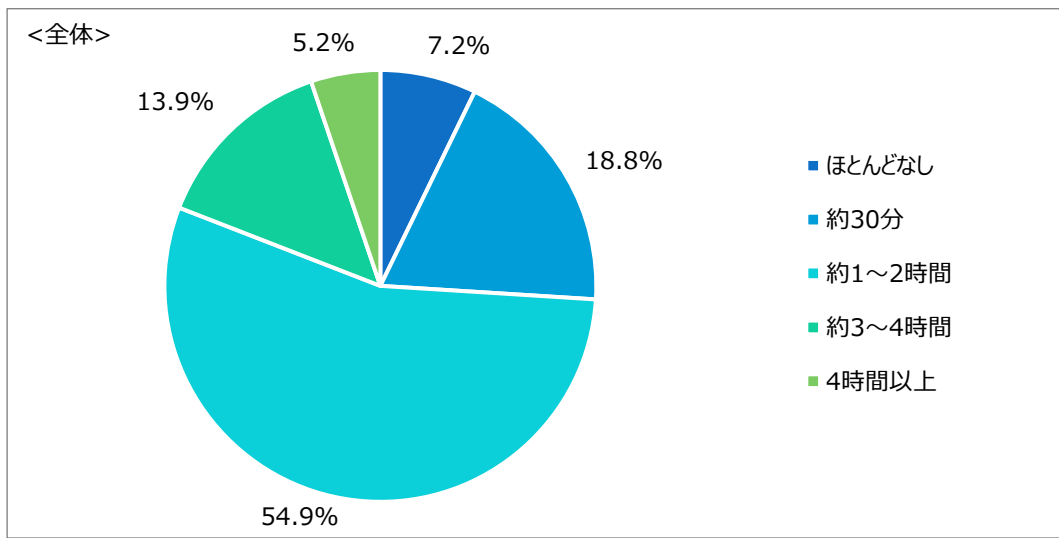
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 ほとんどなし	2.9	2.7	1.6	6.1	2.1	5.0	0.0
2 約30分	9.7	12.8	8.1	13.3	7.0	0.0	9.1
3 約1～2時間	55.8	55.4	49.6	50.0	62.9	55.0	72.7
4 約3～4時間	24.5	24.3	30.1	25.5	20.3	30.0	13.6
5 4時間以上	7.0	4.7	10.6	5.1	7.7	10.0	4.5
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「1～2時間」と回答している学生が最も多く、以前同様の傾向が続いている。「3～4時間」も一定数見られる一方で、「ほとんどなし」という学生は少数にとどまっている。学年による大きな違いは見られず、日常生活の中で無理のない範囲でデジタルメディアを利用している様子がうかがえる。

【問22】 1日平均でSNS以外で友人との交際・趣味・娯楽等に使う時間は

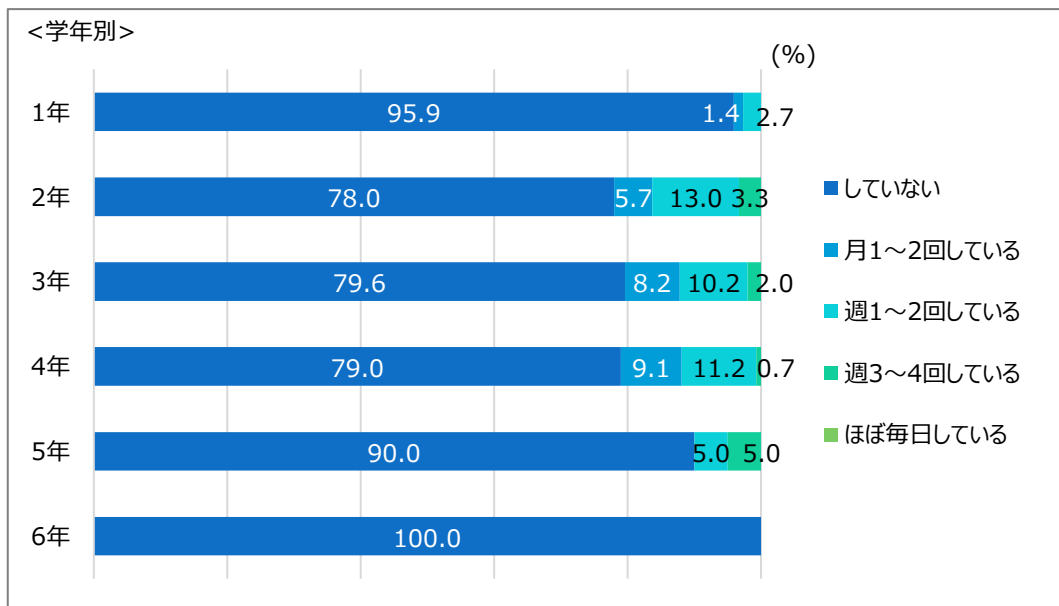
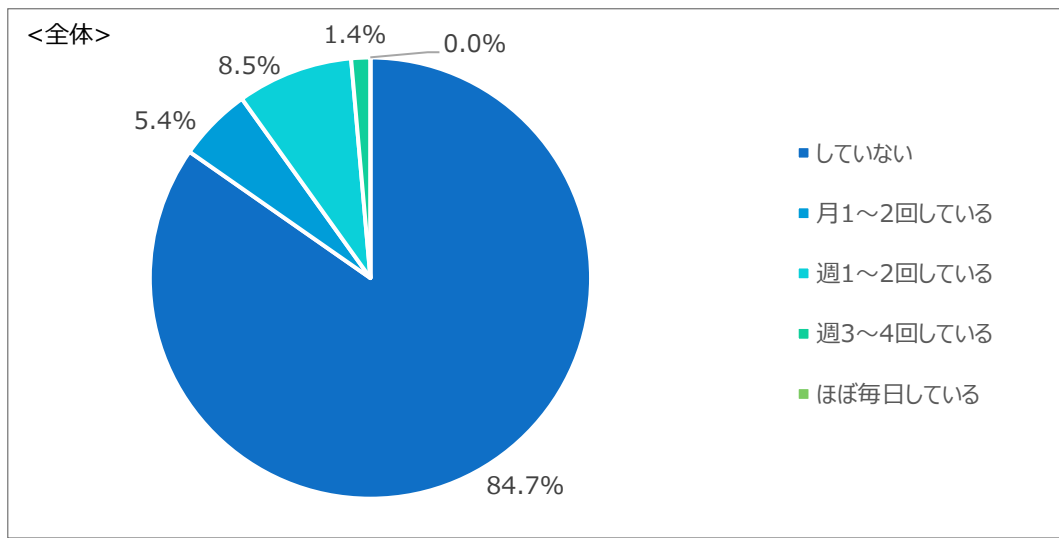
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 ほとんどなし	7.2	4.1	4.1	13.3	7.7	15.0	9.1
2 約30分	18.8	19.6	13.0	17.3	23.8	15.0	22.7
3 約1～2時間	54.9	54.7	61.0	46.9	53.1	65.0	59.1
4 約3～4時間	13.9	18.9	13.8	15.3	10.5	0.0	9.1
5 4時間以上	5.2	2.7	8.1	7.1	4.9	5.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「1～2時間」と回答している学生が最も多く、学生生活の中で無理なく楽しめる範囲を選んでいる傾向が見られる。一方で、長めの時間を確保している学生も一定数おり、過ごし方には個人差があることが分かる。学年別の違いは小さく、どの学年でも似た生活リズムで過ごしている様子が見られる。自分のペースに合わせて楽しみの時間を調整している点が特徴的である。

【問23】 アルバイトをしていますか

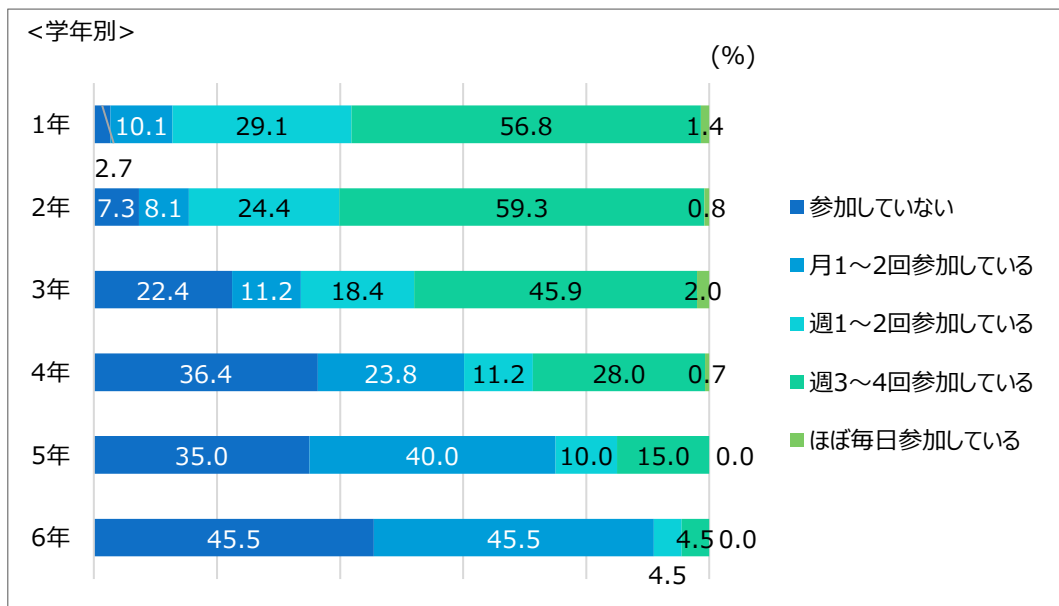
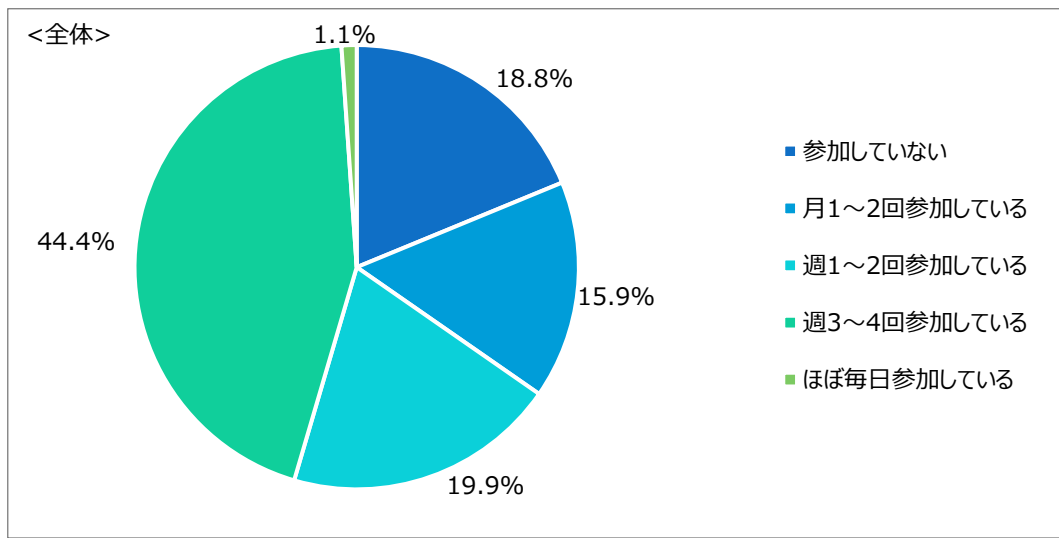
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 していない	84.7	95.9	78.0	79.6	79.0	90.0	100.0
2 月1～2回している	5.4	1.4	5.7	8.2	9.1	0.0	0.0
3 週1～2回している	8.5	2.7	13.0	10.2	11.2	5.0	0.0
4 週3～4回している	1.4	0.0	3.3	2.0	0.7	5.0	0.0
5 ほぼ毎日している	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「していない」と回答している学生が最も多く、学業中心の生活を送っている学生が多いことが分かる。一方で、「月1～2回している」や「週1～2回している」といった無理のない範囲でアルバイトをしている学生もおり、学年による傾向の違いも少し見られる。全体として、学業との両立を意識しながら慎重に取り組んでいる学生が多いといえる。

【問24】 クラブ活動に参加していますか

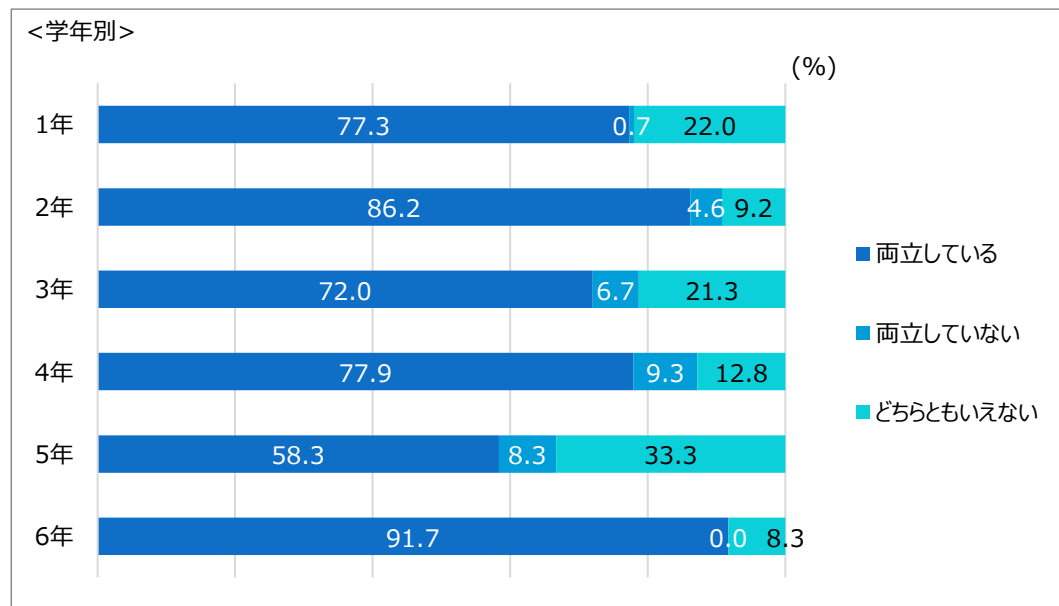
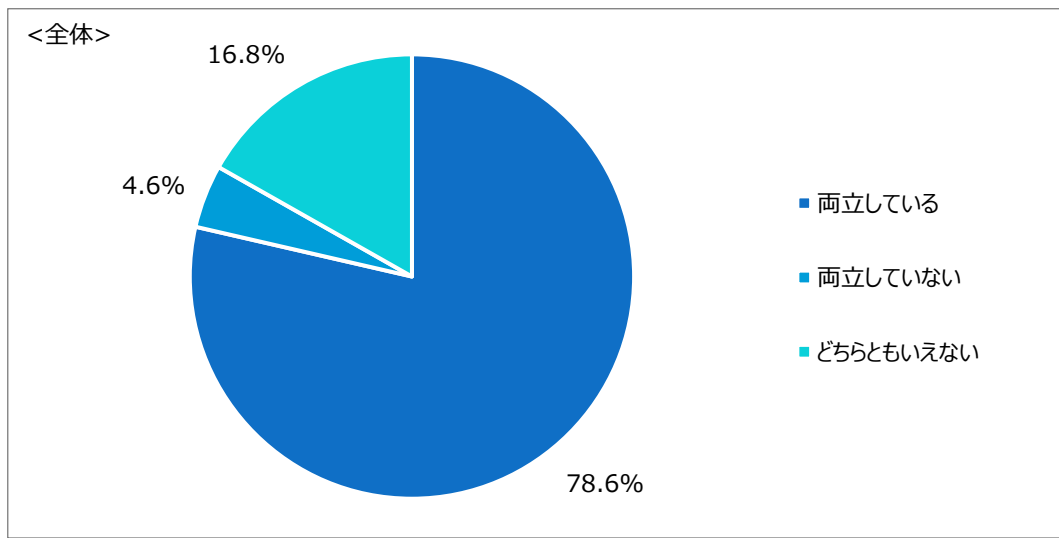
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 参加していない	18.8	2.7	7.3	22.4	36.4	35.0	45.5
2 月1～2回参加している	15.9	10.1	8.1	11.2	23.8	40.0	45.5
3 週1～2回参加している	19.9	29.1	24.4	18.4	11.2	10.0	4.5
4 週3～4回参加している	44.4	56.8	59.3	45.9	28.0	15.0	4.5
5 ほぼ毎日参加している	1.1	1.4	0.8	2.0	0.7	0.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「週3～4回参加している」や「週1～2回参加している」といった継続的に参加している学生が多く見られる。クラブ活動は、多くの学生にとって学びの合間の気分転換や仲間との交流の場となっているようである。また、参加頻度には個人差があり、自分のペースに合わせて関わり方を調整している様子もうかがえる。学年別では低学年ほど参加率が高い傾向が見られた。

【問25】 ※問 24 で 1以外を選択した学生のみ
クラブ活動と学修の両立は

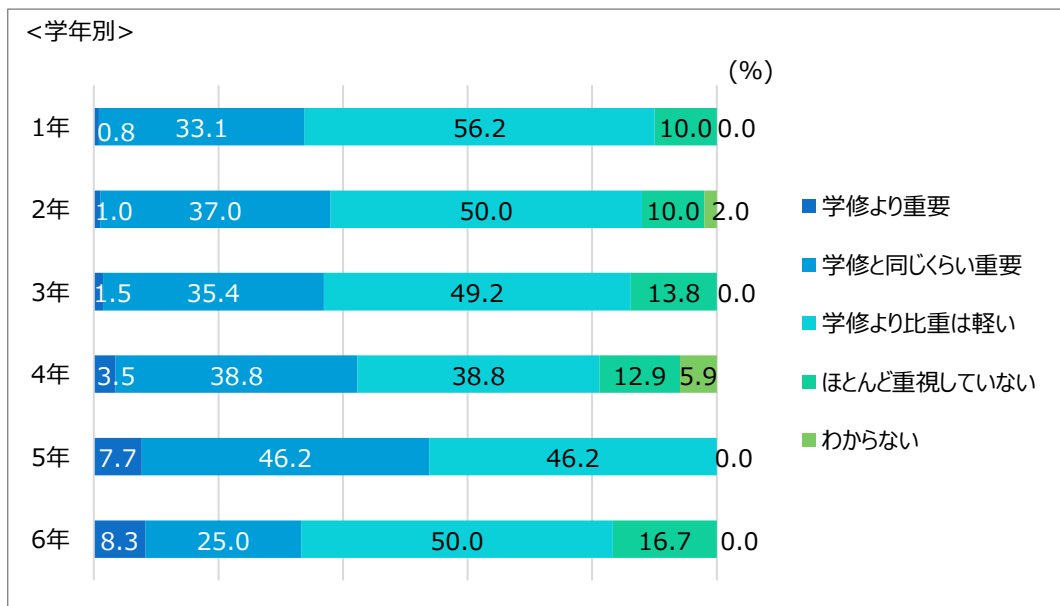
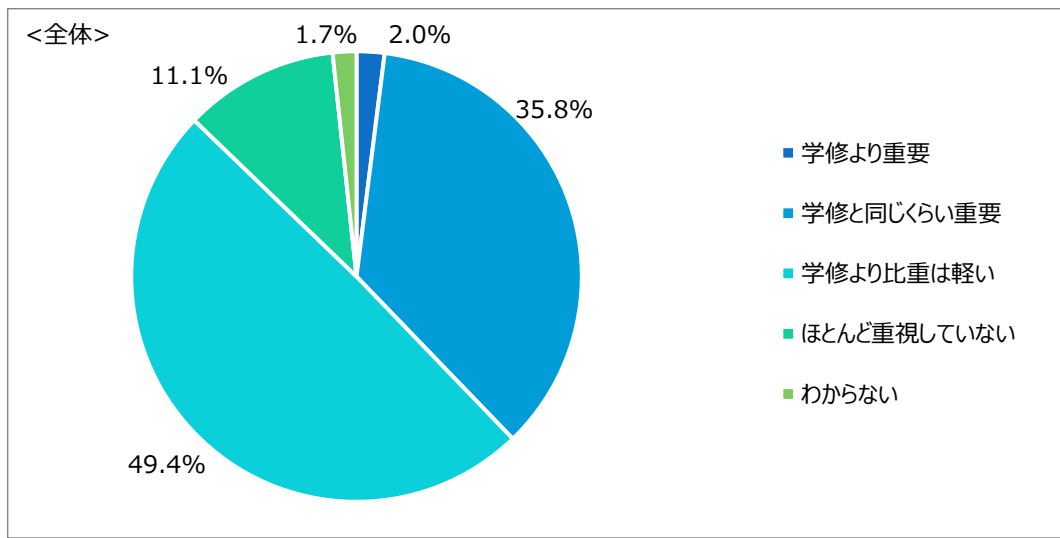
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 両立している	78.6	77.3	86.2	72.0	77.9	58.3	91.7
2 両立していない	4.6	0.7	4.6	6.7	9.3	8.3	0.0
3 どちらともいえない	16.8	22.0	9.2	21.3	12.8	33.3	8.3
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	435	141	109	75	86	12	12



今年度も例年と同じく、多くの学生が「両立している」と感じている様子が見える。一方で、「どちらともいえない」と回答している学生も一定数おり、活動量や学年ごとの忙しさによって感じ方が異なることも見て取れる。学年別では大きなばらつきはなく、それぞれのペースで学修とクラブ活動のバランスを工夫している様子が感じられた。

【問26】 ※問 24 で 1以外を選択した学生のみ
 クラブ活動の重要度は学修と比べてどう考えますか

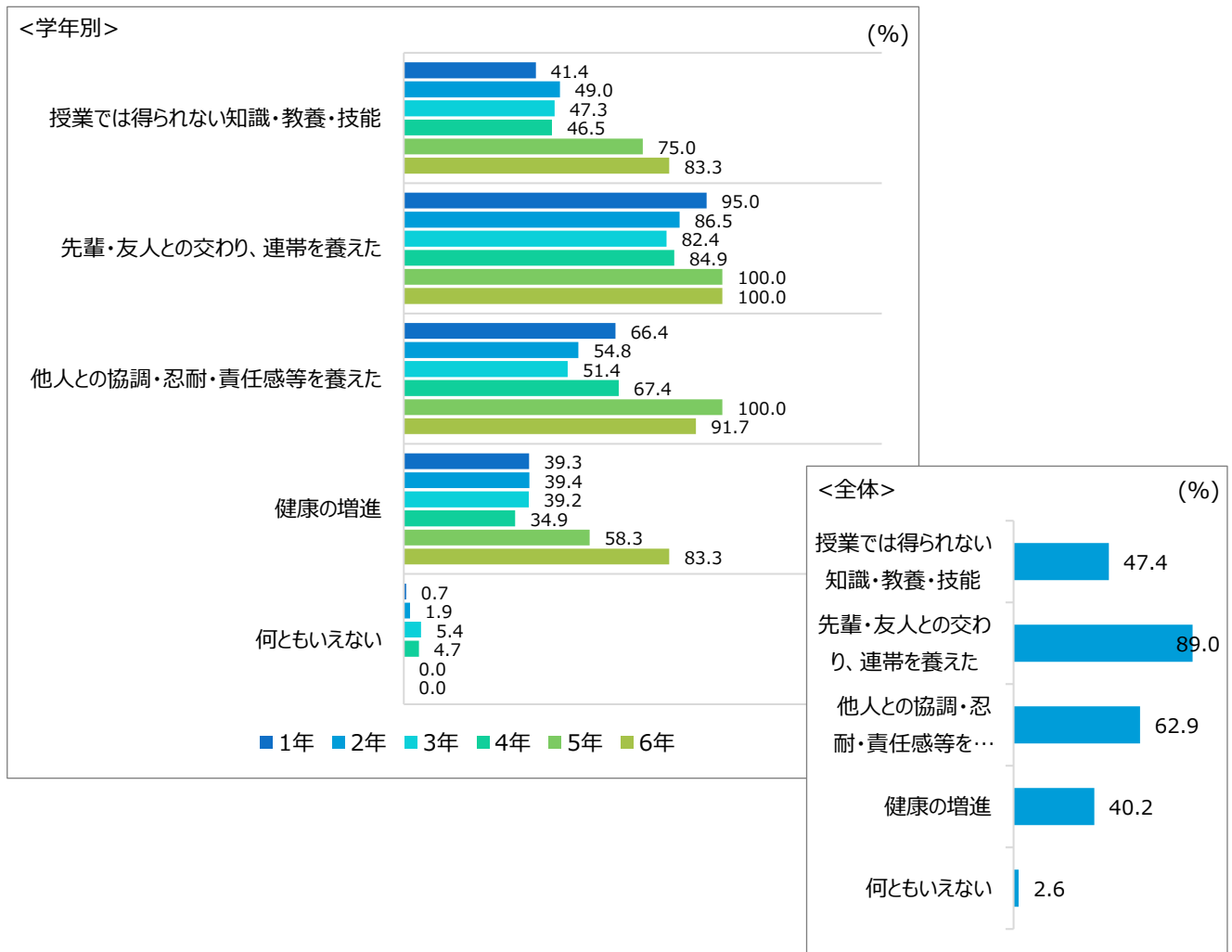
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 学修より重要	2.0	0.8	1.0	1.5	3.5	7.7	8.3
2 学修と同じくらい重要	35.8	33.1	37.0	35.4	38.8	46.2	25.0
3 学修より比重は軽い	49.4	56.2	50.0	49.2	38.8	46.2	50.0
4 ほとんど重視していない	11.1	10.0	10.0	13.8	12.9	0.0	16.7
5 わからない	1.7	0.0	2.0	0.0	5.9	0.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	405	130	100	65	85	13	12



例年同様「学修より比重は軽い」と回答している学生が中心で、学業を軸に活動している学生が多い様子が見える。一方5年生では、「学修と同じくらい重要」と「学修より比重は軽い」がほぼ同率となり、クラブ活動を一定の位置づけとして捉える傾向が見られた。自分の状況に合わせてクラブ活動とのバランスを考えている学生が多い回答結果となった。

【問27】 ※問 24 で 1以外を選択した学生のみ
クラブ活動で得たものは（複数選択可）

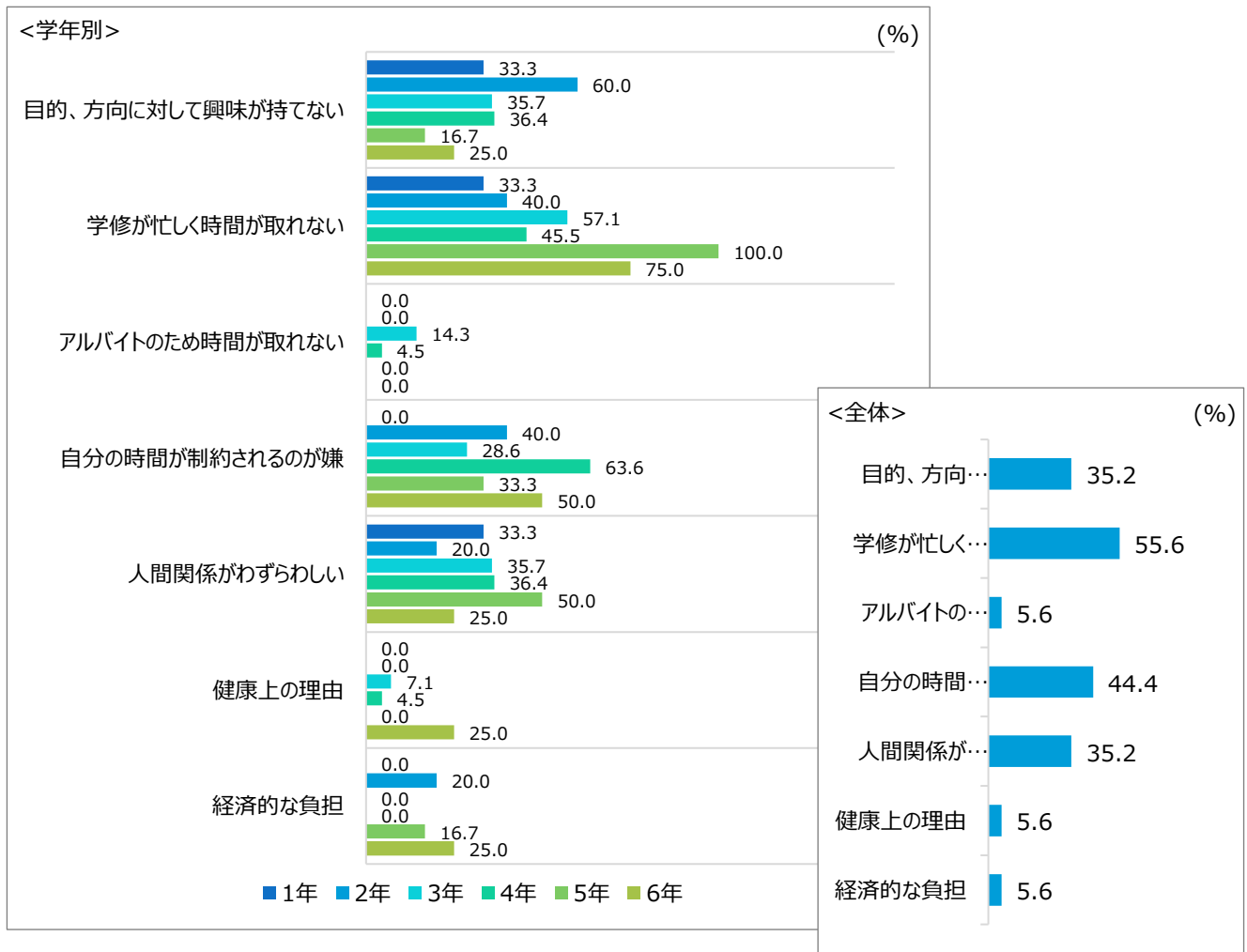
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 授業では得られない知識・教養・技能	47.4	41.4	49.0	47.3	46.5	75.0	83.3
2 先輩・友人との交わり、連帯を養えた	89.0	95.0	86.5	82.4	84.9	100.0	100.0
3 他人との協調・忍耐・責任感等を養えた	62.9	66.4	54.8	51.4	67.4	100.0	91.7
4 健康の増進	40.2	39.3	39.4	39.2	34.9	58.3	83.3
5 何ともいえない	2.6	0.7	1.9	5.4	4.7	0.0	0.0
計 (%)	242.1	242.9	231.7	225.7	238.4	333.3	358.3
回答者数 (人)	428	140	104	74	86	12	12



「先輩・友人との交わり、連帯を養えた」と回答している学生が最も多く、学年に関わらず高い割合を示した。また、「他人との協調・忍耐・責任感等を養えた」も多くの学生が実感しており、クラブ活動が人間関係の形成や社会性の育成に寄与していることがうかがえる。一方で、学年が上がるほど「健康の増進」を意識している傾向が見られた。

【問28】 ※問24で1を選択した学生のみ
 クラブ活動に参加しない理由は（複数選択可）

	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 目的、方向に対して興味が持てない	35.2	33.3	60.0	35.7	36.4	16.7	25.0
2 学修が忙しく時間が取れない	55.6	33.3	40.0	57.1	45.5	100.0	75.0
3 アルバイトのため時間が取れない	5.6	0.0	0.0	14.3	4.5	0.0	0.0
4 自分の時間が制約されるのが嫌	44.4	0.0	40.0	28.6	63.6	33.3	50.0
5 人間関係がわずらわしい	35.2	33.3	20.0	35.7	36.4	50.0	25.0
6 健康上の理由	5.6	0.0	0.0	7.1	4.5	0.0	25.0
7 経済的な負担	5.6	0.0	20.0	0.0	0.0	16.7	25.0
計 (%)	187.0	100.0	180.0	178.6	190.9	216.7	225.0
回答者数 (人)	54	3	5	14	22	6	4

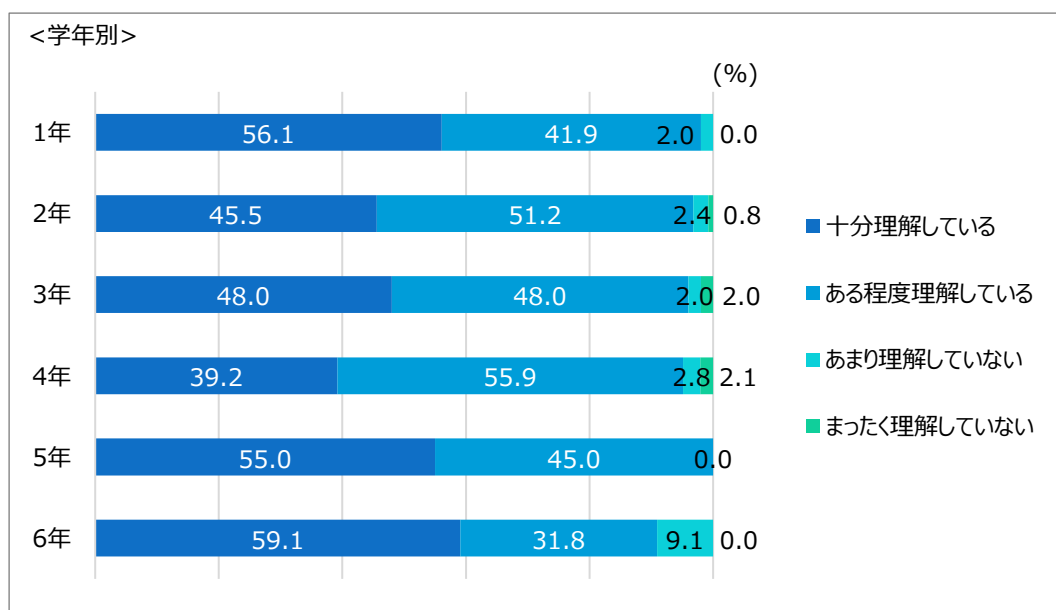
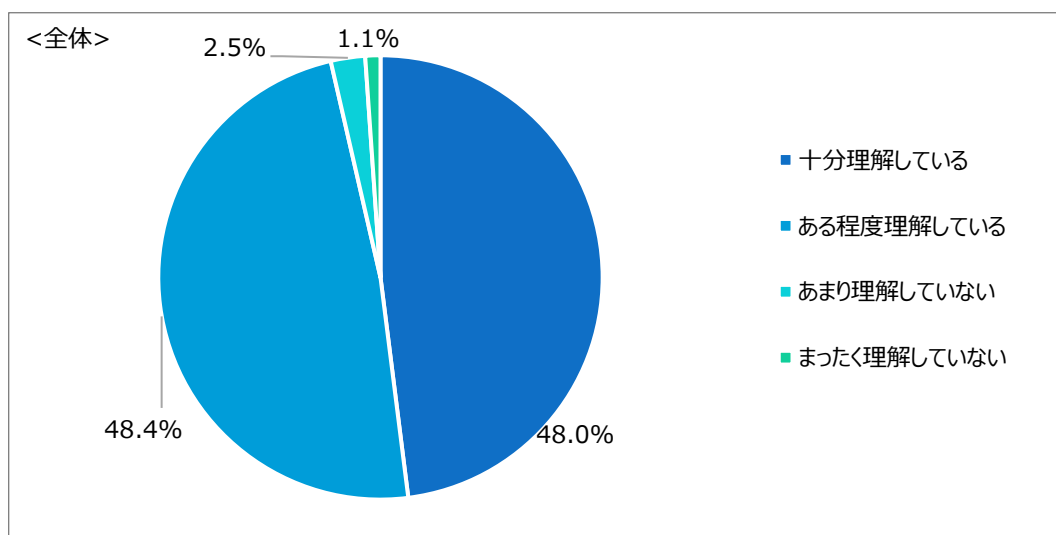


「学修が忙しく時間が取れない」「自分の時間が制約されるのが嫌」といった生活リズムに関する回答が中心となった。また、「目的・方向に対して興味が持てない」「人間関係がわずらわしい」といった、活動との相性に関する声も一定数見られる。いずれも、学生一人ひとりが学修や生活とのバランスを考え、自分に合った過ごし方を選んでいる様子がうかがえる。

学生の行動規範について（問29～問35）

【問29】 1. 社会の一員としての責務を自覚する

	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 十分理解している	48.0	56.1	45.5	48.0	39.2	55.0	59.1
2 ある程度理解している	48.4	41.9	51.2	48.0	55.9	45.0	31.8
3 あまり理解していない	2.5	2.0	2.4	2.0	2.8	0.0	9.1
4 まったく理解していない	1.1	0.0	0.8	2.0	2.1	0.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22

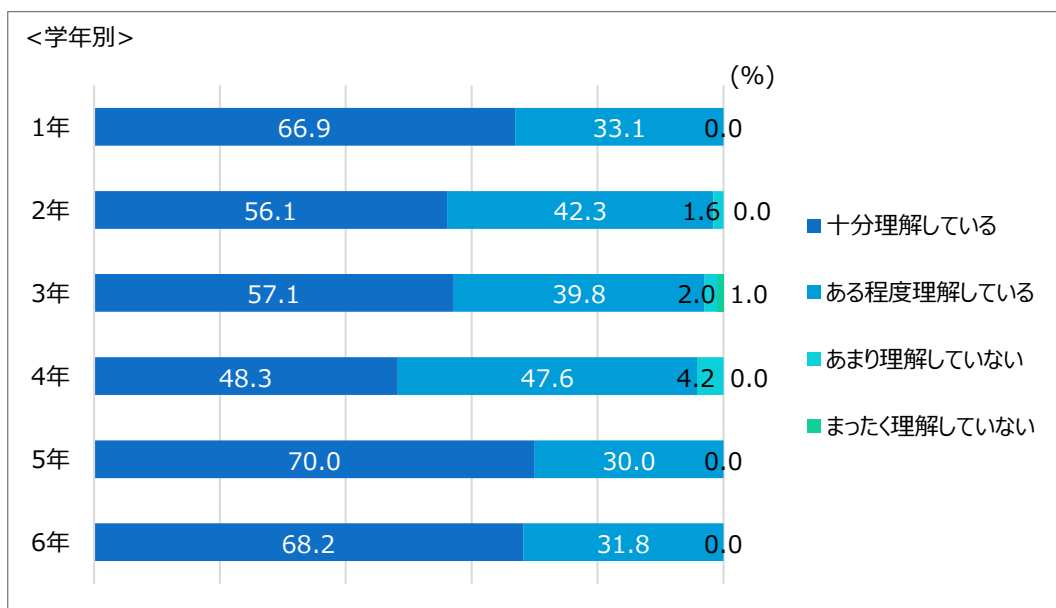
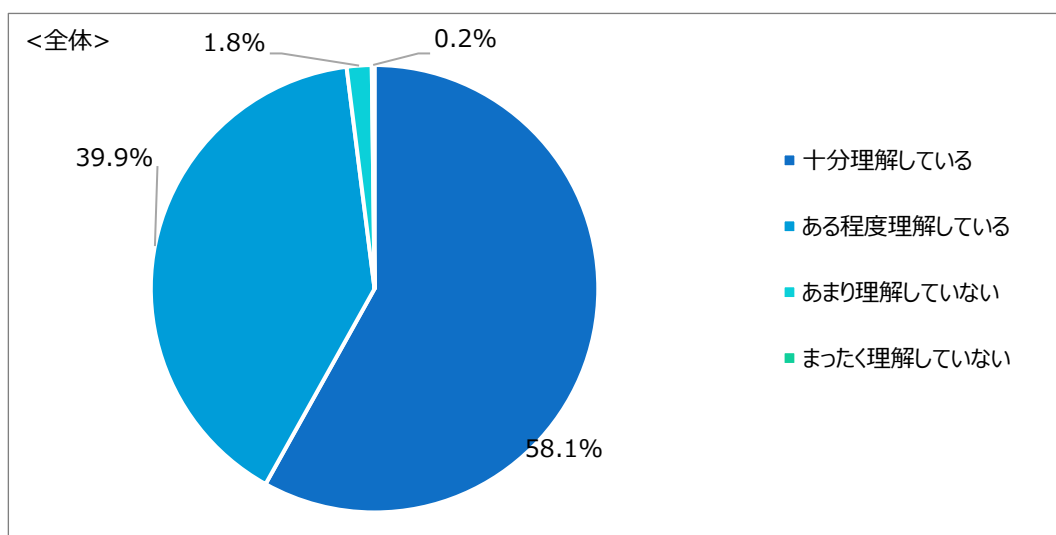


「十分理解している」「ある程度理解している」と回答している学生が合わせて96.4%を占め、多くの学生が社会の一員としての責務を肯定的に理解していることが分かる。学年別に見ると、いずれの学年でも高い理解度が示されているが、6年生では「十分理解している」の割合が最も高く、卒業を控える段階で自覚がより強まっている様子が見られる。一方で、「あまり理解していない」との回答もわずかに見られ、引き続き価値観の形成を支援する機会の提供が求められる。

学生の行動規範について（問29～問35）

【問30】 2. 医学の研鑽に努め、優れた医療人を目指す

	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 十分理解している	58.1	66.9	56.1	57.1	48.3	70.0	68.2
2 ある程度理解している	39.9	33.1	42.3	39.8	47.6	30.0	31.8
3 あまり理解していない	1.8	0.0	1.6	2.0	4.2	0.0	0.0
4 まったく理解していない	0.2	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22

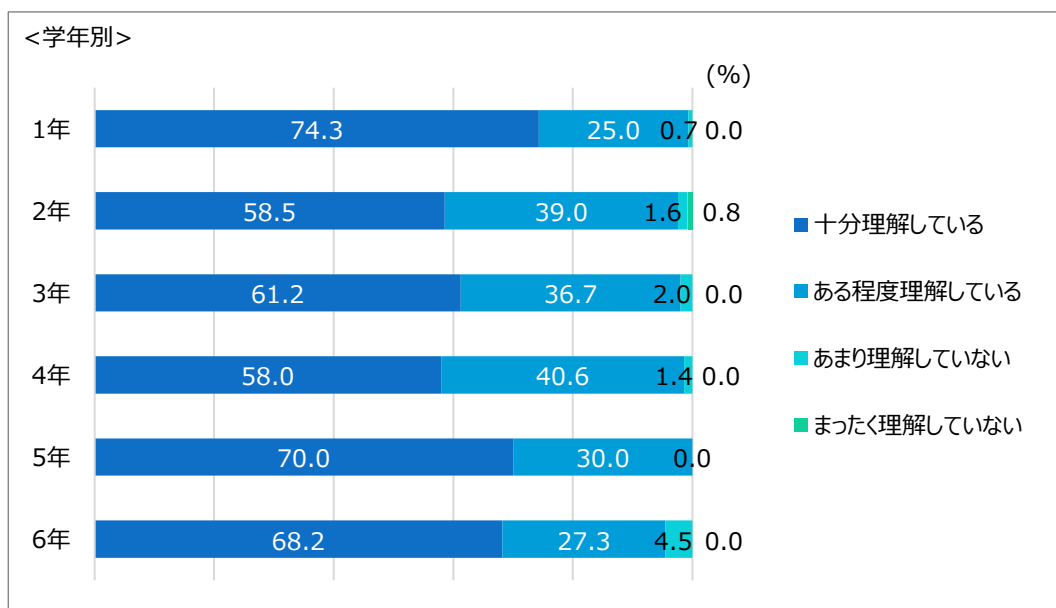
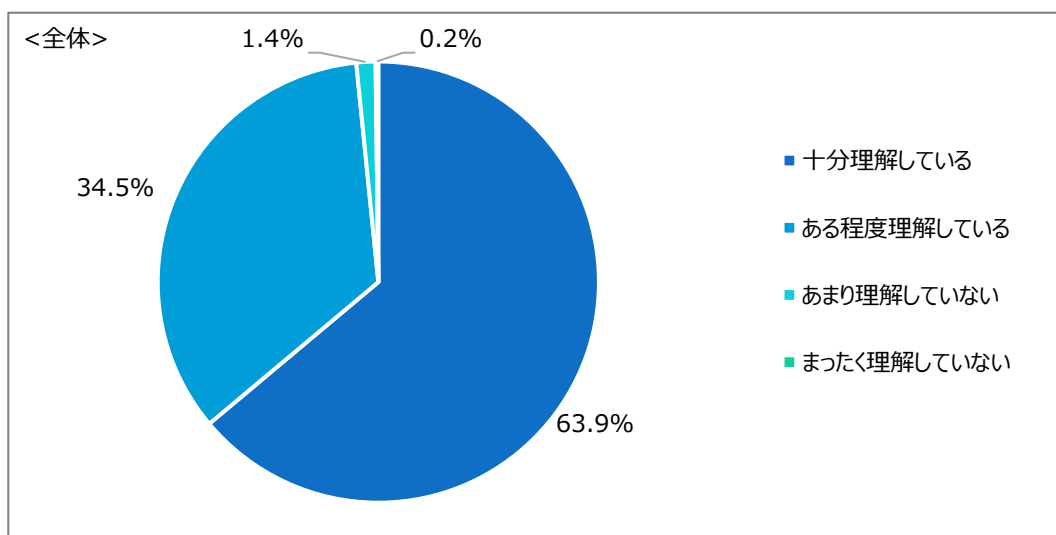


「十分理解している」「ある程度理解している」と回答している学生が合わせて98%を占め、多くの学生が医療者としての姿勢を明確に意識していることが分かる。学年別では、全学年で高い理解度が維持されており、特に5・6年生では「十分理解している」の割合がさらに高く、臨床実習を行うにつれて自覚が一層強まっていることが示された。

学生の行動規範について（問29～問35）

【問31】 3. 円滑な人間関係を築き、協調性を大切にする

	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 十分理解している	63.9	74.3	58.5	61.2	58.0	70.0	68.2
2 ある程度理解している	34.5	25.0	39.0	36.7	40.6	30.0	27.3
3 あまり理解していない	1.4	0.7	1.6	2.0	1.4	0.0	4.5
4 まったく理解していない	0.2	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22

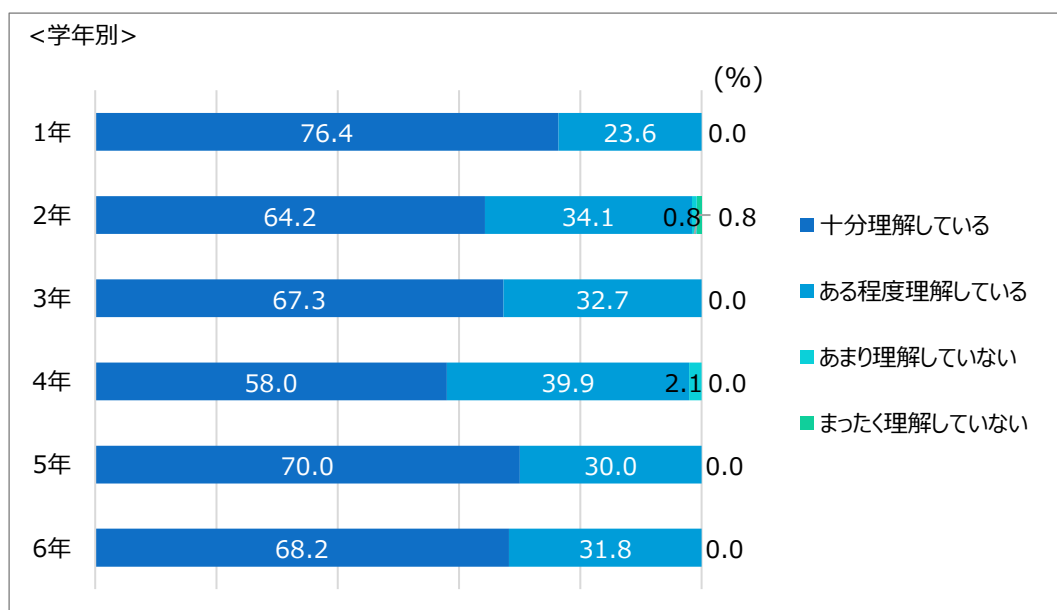
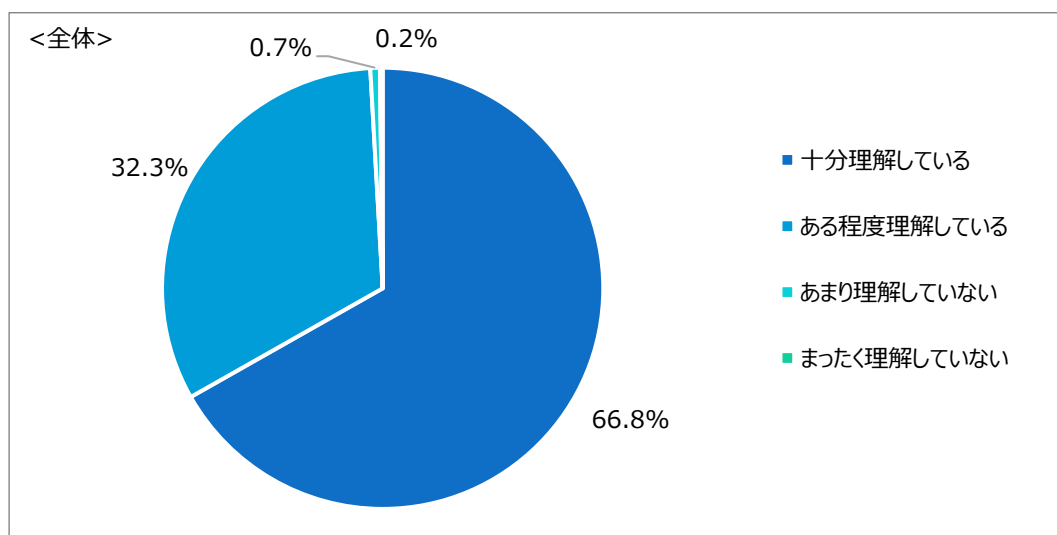


「十分理解している」「ある程度理解している」と回答している学生が合わせて98.4%を占め、多くの学生が円滑な人間関係の重要性を自覚していることが分かる。学年別では1年生の理解度が特に高く、入学早期から協調性の価値を認識している様子がうかがえる。一方で、高学年になるほど割合がやや分散し、学年による経験の違いが反映されている可能性が示唆された。

学生の行動規範について（問29～問35）

【問32】 4. 医療に関わるすべての人に敬意と思いやりを持って学ぶ

	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 十分理解している	66.8	76.4	64.2	67.3	58.0	70.0	68.2
2 ある程度理解している	32.3	23.6	34.1	32.7	39.9	30.0	31.8
3 あまり理解していない	0.7	0.0	0.8	0.0	2.1	0.0	0.0
4 まったく理解していない	0.2	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22

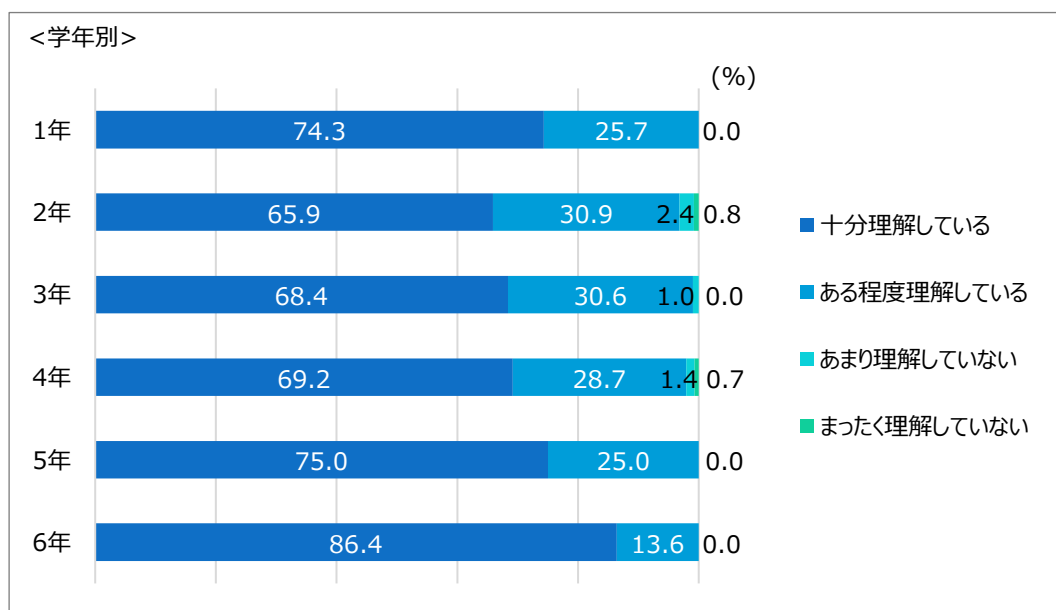
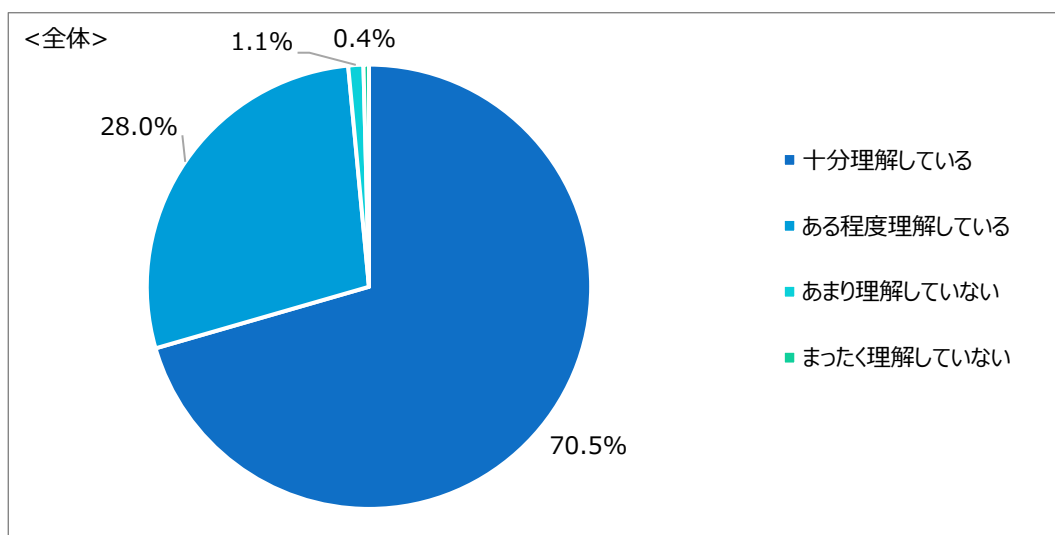


「十分理解している」「ある程度理解している」と回答している学生が合わせて99.1%を占め、多くの学生が医療者として求められる姿勢を理解していることが示された。学年別では1年生の理解度が特に高く、初期段階から意識が形成されていることがうかがえる。一方で、ごく少数ながら「あまり理解していない」とする回答も見られ、継続的な教育の重要性が示唆される。

学生の行動規範について（問29～問35）

【問33】 5. 個人情報 を適切に扱い、守秘義務を徹底する

	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 十分理解している	70.6	74.3	65.9	68.4	69.2	75.0	86.4
2 ある程度理解している	28.0	25.7	30.9	30.6	28.7	25.0	13.6
3 あまり理解していない	1.1	0.0	2.4	1.0	1.4	0.0	0.0
4 まったく理解していない	0.4	0.0	0.8	0.0	0.7	0.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22

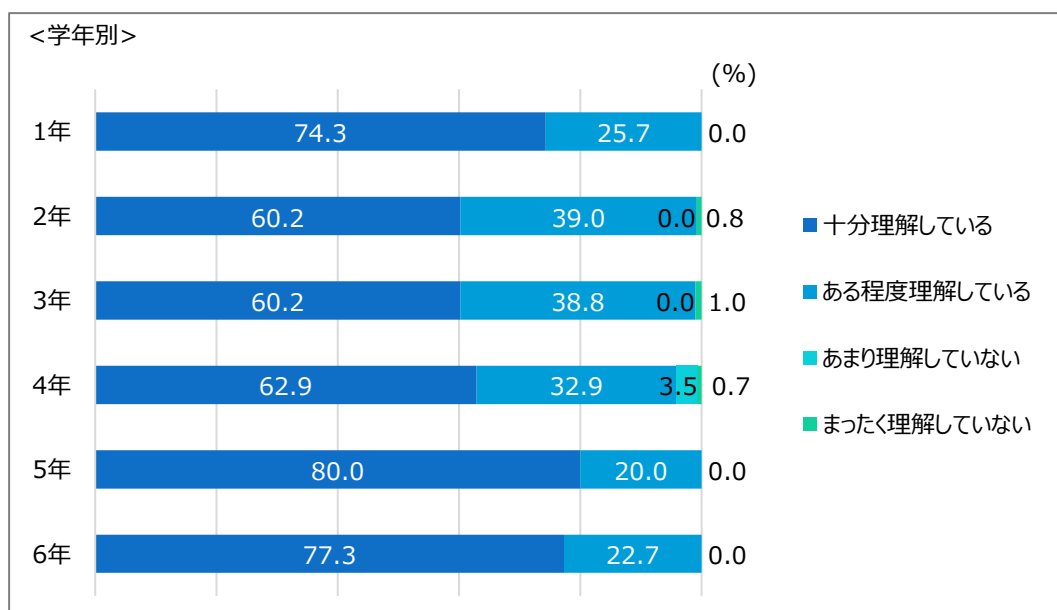
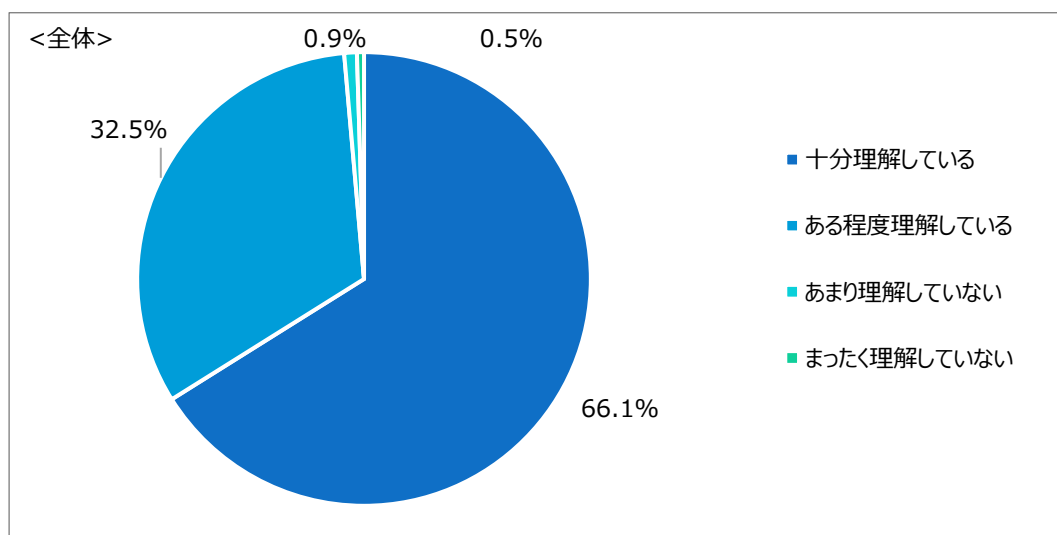


「十分理解している」「ある程度理解している」と回答している学生が合わせて98.5%を占め、個人情報の取り扱いや守秘義務に関する意識は全体として高い水準にあることが示された。特に1年生から高い理解度が見られ、学年を問わず重要性が浸透している様子がうかがえる。一方で、少数ながら理解が不十分とする回答もあり、今後も継続的な教育を通じて意識の定着を図る必要がある。

学生の行動規範について（問29～問35）

【問34】 6. 人権を尊重し、公平かつ倫理的な態度を維持する

	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 十分理解している	66.1	74.3	60.2	60.2	62.9	80.0	77.3
2 ある程度理解している	32.5	25.7	39.0	38.8	32.9	20.0	22.7
3 あまり理解していない	0.9	0.0	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0
4 まったく理解していない	0.5	0.0	0.8	1.0	0.7	0.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22

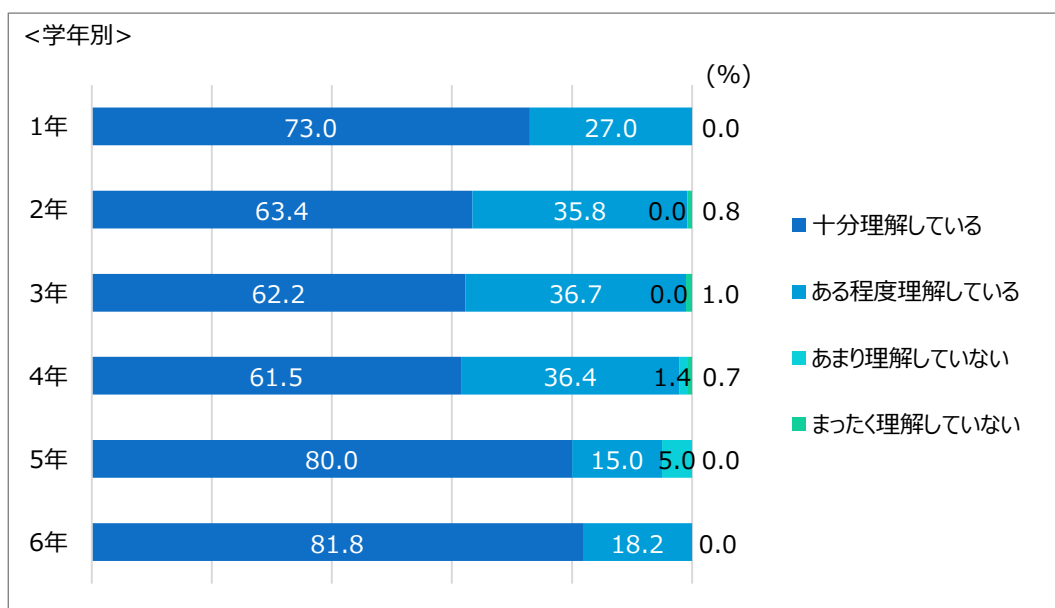
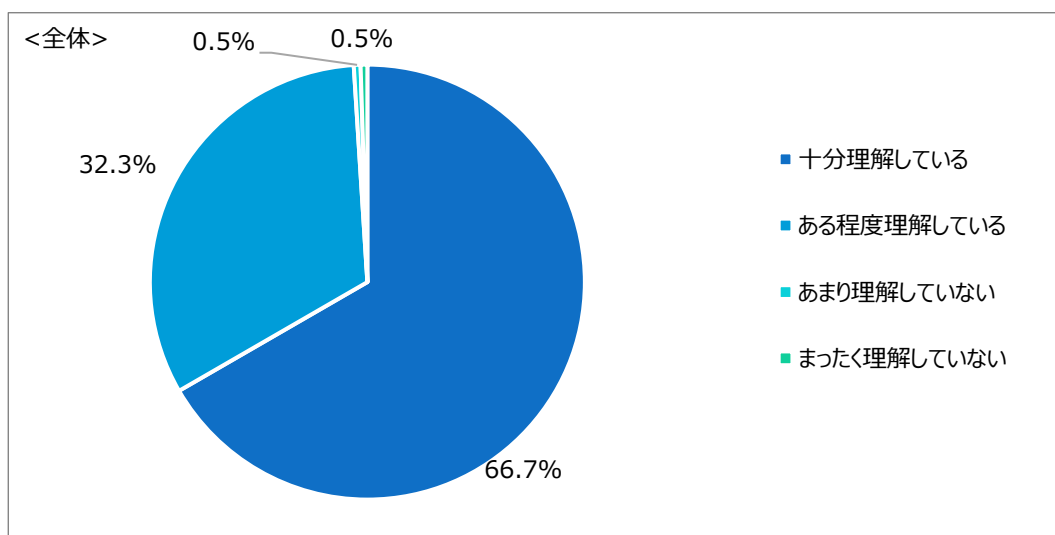


「十分理解している」または「ある程度理解している」と回答している学生が合わせて98.6%を占め、人権尊重や倫理的態度の重要性が広く浸透していることがうかがえる。特に高学年で理解度が高い傾向が見られ、臨床実習や学内外での学びを通じて、倫理観を実践的に捉える機会が増えていることが影響していると考えられる。一方で、「あまり理解していない」という回答もわずかに存在し、継続的な教育の必要性も示されている。

学生の行動規範について（問29～問35）

【問35】 7. 情報発信には細心の注意を払い、医学生としての品位を保つ

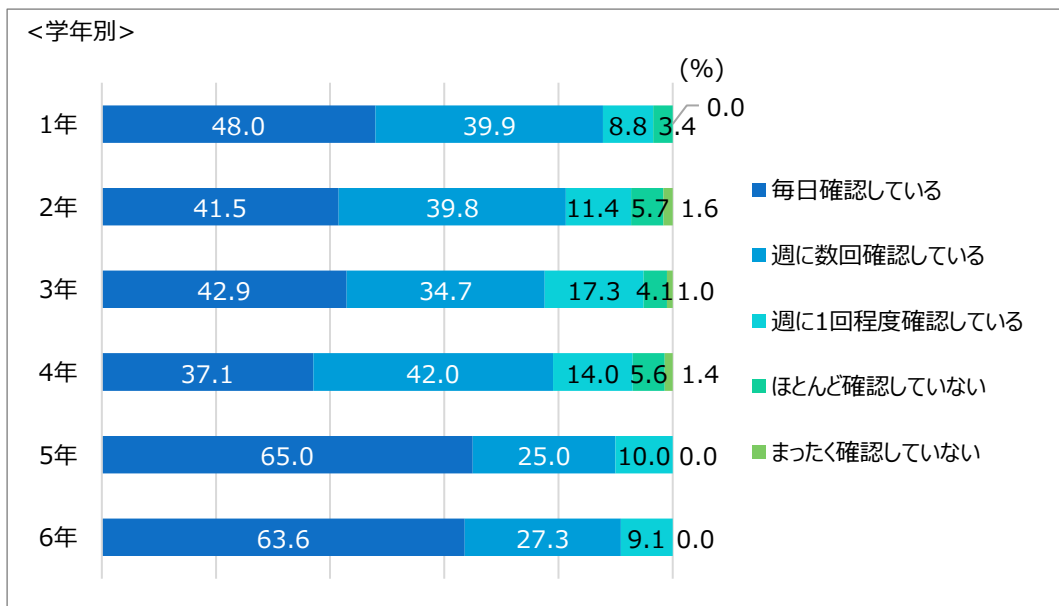
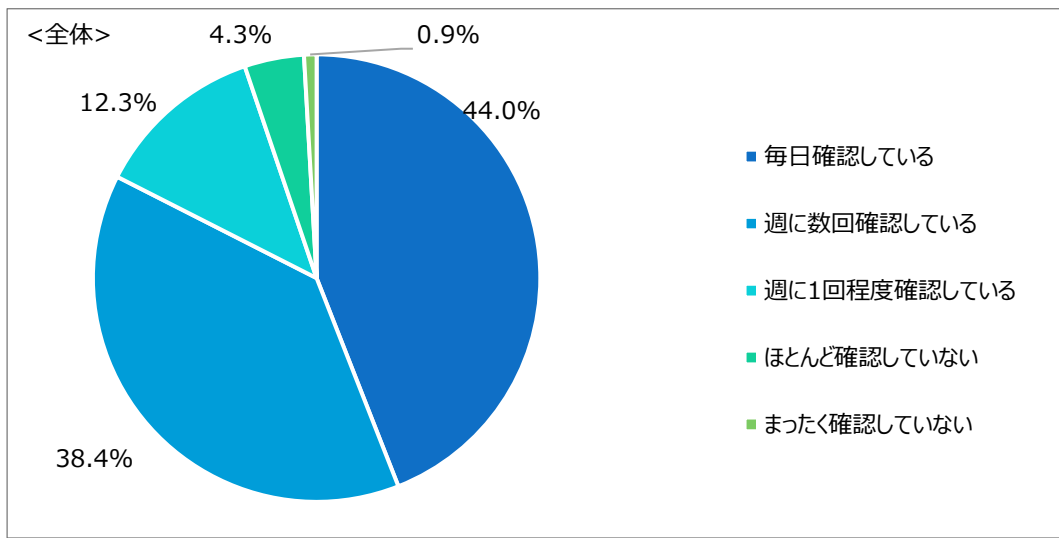
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 十分理解している	66.6	73.0	63.4	62.2	61.5	80.0	81.8
2 ある程度理解している	32.3	27.0	35.8	36.7	36.4	15.0	18.2
3 あまり理解していない	0.5	0.0	0.0	0.0	1.4	5.0	0.0
4 まったく理解していない	0.5	0.0	0.8	1.0	0.7	0.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「十分理解している」「ある程度理解している」と回答している学生が合わせて99.1%を占め、多くの学生が情報発信における責任と医学生としての品位保持を強く意識していることが分かる。特に5・6年生では「十分理解している」の割合がさらに高く、臨床実習を目前または経験していることが理解の定着につながっていると考えられる。一方で、「あまり理解していない」はごく少数で、全体として高い意識水準が維持されている。

【問36】 大学からの連絡をどの程度確認していますか

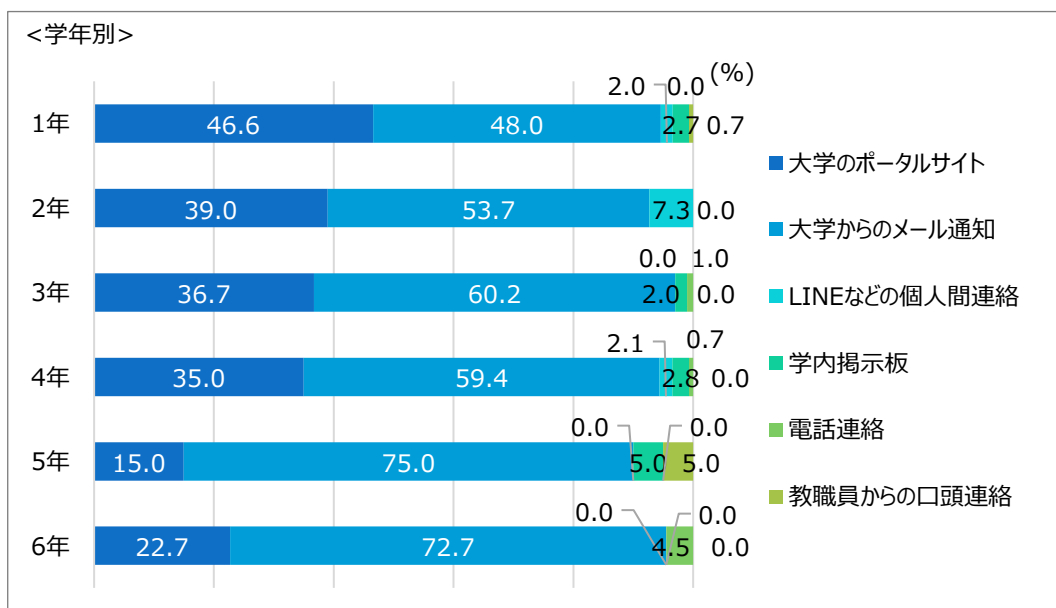
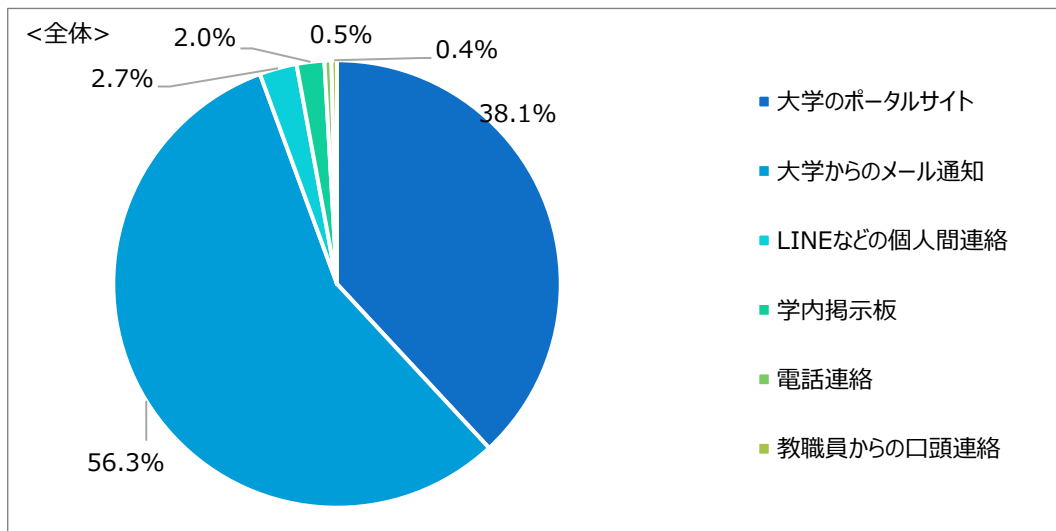
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 毎日確認している	44.0	48.0	41.5	42.9	37.1	65.0	63.6
2 週に数回確認している	38.4	39.9	39.8	34.7	42.0	25.0	27.3
3 週に1回程度確認している	12.3	8.8	11.4	17.3	14.0	10.0	9.1
4 ほとんど確認していない	4.3	3.4	5.7	4.1	5.6	0.0	0.0
5 まったく確認していない	0.9	0.0	1.6	1.0	1.4	0.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



多くの学生がこまめに確認しており、「毎日確認している」「週に数回確認している」が合わせて8割を超えた。特に高学年では毎日確認する割合がより高く、学修や実習に関連した情報収集の姿勢が強うかがえる。一方で、週1回程度の確認にとどまる学生も一部見られ、連絡手段の周知や確認習慣づくりの大切さも感じられる結果となった。

【問37】 大学からの情報・連絡を受け取る際に、主に利用している手段は何ですか

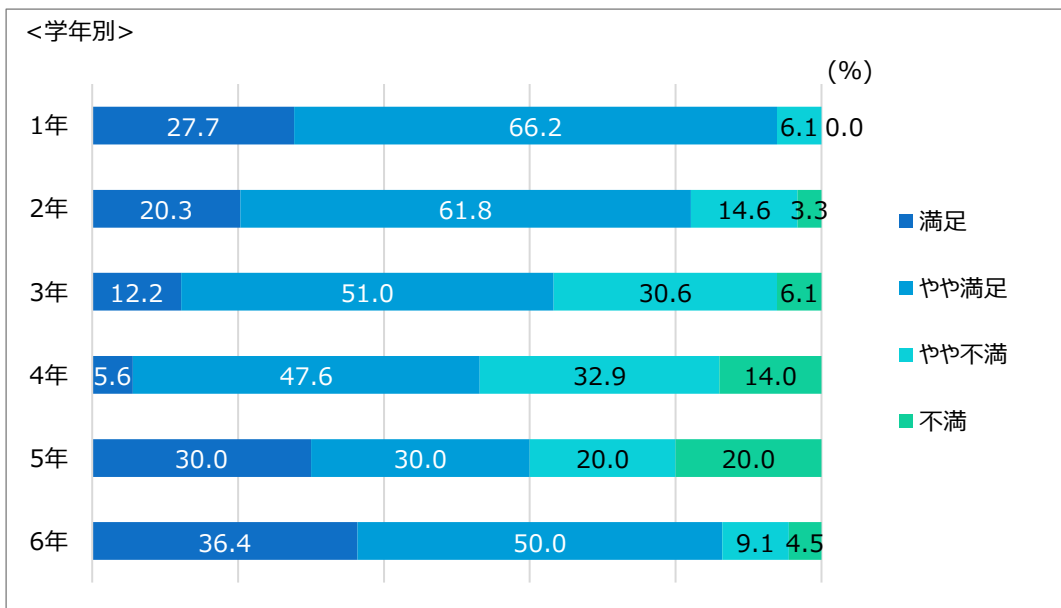
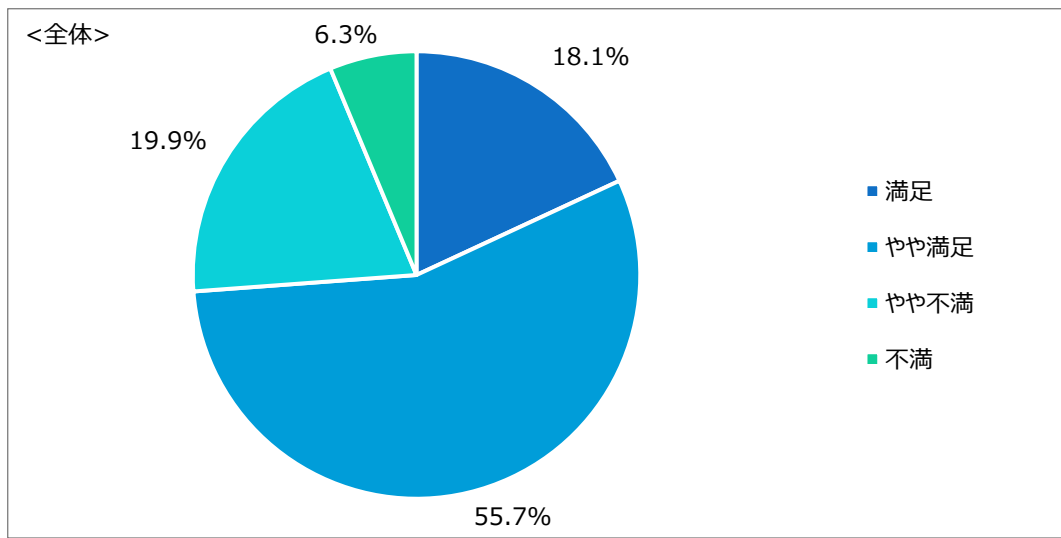
	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 大学のポータルサイト	38.1	46.6	39.0	36.7	35.0	15.0	22.7
2 大学からのメール通知	56.3	48.0	53.7	60.2	59.4	75.0	72.7
3 LINEなどの個人間連絡	2.7	2.0	7.3	0.0	2.1	0.0	0.0
4 学内掲示板	2.0	2.7	0.0	2.0	2.8	5.0	0.0
5 電話連絡	0.5	0.0	0.0	1.0	0.7	0.0	4.5
6 教職員からの口頭連絡	0.4	0.7	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



「大学のポータルサイト」と「大学からのメール通知」が主要な受け取り手段となっており、全体の9割以上を占めた。特に高学年ほどメール通知の利用が高く、実習や進路に関わる連絡を敏感に受け取ろうとする姿勢がうかがえる。一方で、掲示板や個人連絡、電話などの利用はごく少数であり、学生の情報収集がオンライン中心に定着していることが読み取れる。

【問38】 本学の総合的な満足度はどれくらいですか

	全学生	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 満足	18.1	27.7	20.3	12.2	5.6	30.0	36.4
2 やや満足	55.8	66.2	61.8	51.0	47.6	30.0	50.0
3 やや不満	19.9	6.1	14.6	30.6	32.9	20.0	9.1
4 不満	6.3	0.0	3.3	6.1	14.0	20.0	4.5
計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数 (人)	554	148	123	98	143	20	22



今年度の総合的な満足度は、「満足」「やや満足」と回答した学生が7割を超え、全体として前向きな評価が多い結果となった。特に1年生と6年生では満足度が比較的高く、学年が進む中で感じ方に変化があることも見て取れる。一方で、3～5年生では「やや不満」「不満」の割合がやや高めであり、学修や生活環境など、在学中の負担が大きくなる時期特有の悩みが影響している可能性も考えられる。学生生活の状況に応じた丁寧なサポートの必要性がうかがえる結果となった。

2026年1月 刊行

[調査実施]

川崎医科大学 学生課

[集計分析・執筆編集]

川崎医科大学 IR室

